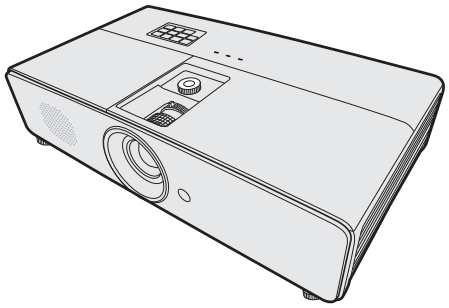
Canon

POWER PROJECTOR
LX-MW500/LX-MU500
使用説明書



ご使用の前に、必ずこの使用説明書をお読みください。
特に「安全にお使いいただくために」の項は必ずお読みになり、正しくご使用ください。
またお読みになった後、この使用説明書をいつでも見られる場所に保管してください。
本製品は日本国内用に設計されております。
電源電圧の異なる外国ではご使用になれません。

目次

目次 2
安全にお使いいただくために 3
使用上のご注意 5
設置のときのご注意 7
ランプについての安全上のご注意 8
リモコンの電池に関するご注意 10
3D 視聴についての安全上のご注意 11
はじめに 15
同梱品（付属品の確認）..... 16
各部のなまえ 17
コントロール部および機能 18
プロジェクターを設置する 24
設置場所を決める 24
画面サイズを調整する 25
投写レンズを上下方向にシフト調整する 28
接続する 29
コンピュータまたはモニタを接続する 29
ビデオ機器（AV 機器）を接続する 31
メニューによる機能設定 39
操作 40
プロジェクターを起動する 40
メニューの使いかた 41
パスワード機能の使いかた 42
入力信号を切り替える 44
映像を調整する 45
映像を拡大して見るには 48
縦横比を選ぶ 48
プレゼンテーション中に使える便利な機能 50
プレゼンテーションタイマーを設定する 53
映像を消す 55
コントロールキーをロックする .. 55
映像を静止する 56
音量を調整する 56
プロジェクターのメニュー表示をカスタマイズする 57
プロジェクターの電源を切る ... 57
3D コンテンツを見る 58
コンピュータによる管理と操作 ..60
LAN を設定する 60
Web ブラウザからプロジェクターを遠隔操作する（e-Control™）..62
PJLink™ アプリケーションを使ってプロジェクターを操作する ... 65
メニューの操作 69
メンテナンス 78
プロジェクターを清掃する 78
ランプについて 81
付録.....87
LED インジケーターの表示について 88
故障かなと思ったら 89
仕様 91
プロジェクターの仕様 91
寸法 94
対応信号 95
制御コマンド 100
システム条件 100

安全にお使いいただくために

安全上の注意を表す記号

この使用説明書で使用しているマークについて説明します。本書では製品を安全にお使いいただくため、大切な記載事項には次のようなマークを使用しています。これらの記載事項は必ずお守りください。

⚠ 警告	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、死亡または傷害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
⚠ 注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、傷害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
 感電注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、感電の可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
 分解禁止  接触禁止  水ぬれ禁止  ぬれ手禁止	これらの記号は、行ってはいけない行為（禁止事項）を示しています。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。
 禁　止	この記号は、その他の行ってはいけない行為（禁止事項）を示しています。
 アース線を接続する  電源プラグをコンセントから抜け	これらの記号は、行わなければならない行為を示しています。 図の中に具体的な指示内容が描かれています。
 注　意	この記号は、必ず守っていただきたい行為や内容を示しています。

電波障害自主規制について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

著作権についてのご注意

本機を営利目的または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテル等において画面サイズ切り換え機能等を利用して画面の圧縮、引き伸ばし等を行いますと、著作権法で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。

ネットワークのセキュリティについてのご注意

ネットワークのセキュリティ対策に関しては、お客様ご自身の責任で行ってください。不正アクセスなどネットワークのセキュリティ上の問題により発生した直接、間接の障害については、弊社は一切の責任を負いかねます。

＜対策例＞

- イントラネット環境で使用する。
- プライベート IP アドレスで運用する。
- ファイアーウォールが設定された環境で運用する。
- パスワードを定期的に変更する。

商標について

- Ethernet は Xerox 社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Aero は、米国 Microsoft Corporation の米国および、その他の国における登録商標または、商標、商品名です。
- Mac, Mac OS, および Macintosh は米国その他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
- HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。
- PJLink 商標は、日本、米国その他の国や地域における登録又は出願商標です。
- Crestron®、Crestron RoomView®、Crestron Connected™ は、Crestron Electronics, Inc. の登録商標です。
- MHL、MHL のロゴ、および Mobile High-Definition Link は、米国およびその他の国における MHL, LLC の商標または登録商標です。

使用上のご注意

安全に関する重要な内容ですので、ご使用の前によくお読みの上、正しくお使いください。

⚠ 警告

以下のような場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、販売店へご連絡ください。放置すると火災や感電の原因になります。


電源プラグをコンセントから抜け


感電注意

- 煙が出ている
- 変なにおいや音がする
- 大きな音がしてランプが消えた
- 水など液体が本機に入った
- 金属類や異物が本機に入った
- 本機を倒したり、落としたりして、キャビネットを破損した

⚠ 警告

電源コードの取り扱いについて以下の点に注意してください。火災や感電、けがの原因になります。


禁　止


感電注意

- 電源コードの上に重い物を載せたり、本機の下敷きにならないようにしてください。コードが破損します。
- 電源コードを敷物などで覆わないでください。
- 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。
- 電源コードを熱器具に近づけたり、加熱しないでください。
- 電源コードを細かく曲げたり、巻いたり、束ねたりしたまま使用しないでください。
- 破損した電源コードを使用しないでください。電源コードが破損した場合は新たに電源コードを販売店から購入してください。
- 付属している電源コードは、本製品専用です。他の製品では使用できません。


アース線を接続する


感電注意

- 電源コードのアース線を必ずアースに接続してください。アース線を接続しないと感電の原因となります。
- アース線の接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

⚠ 警 告

電源および電源プラグ、コネクターの取り扱いについて以下の点に注意してください。火災や感電、けがの原因になります。


禁　止


感電注意

- 表示された電源電圧（AC100V）以外の電圧で使用しないでください。
- 電源プラグやコネクターを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグやコネクターを持って抜いてください。コードが傷つきます。
- 電源プラグやコネクターの接点部に金属類を差し込まないでください。


電源プラグをコンセントから抜け


感電注意

- お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜いてください。


ぬれ手禁止


感電注意

- ぬれた手で電源プラグやコネクターを抜き差ししないでください。


注　意


感電注意

- 電源プラグやコネクターは根元まで確実に差し込んでください。また、痛んだプラグや、ゆるんだコンセントは使用しないでください。
- コンセント付き延長コードを使う場合は、つなぐ機器の消費電力の合計が延長コードの定格電力を超えない範囲でお使いください。


注　意

- 電源プラグとコンセントは定期的に点検し、プラグとコンセントの間にたまったホコリ・ごみ・汚れなどを取り除いてください。

⚠ 警 告

誤飲に関して以下の点にご注意ください。


禁　止

- リモコンの電池や電池ホルダー、また本体から外れた調整脚などの小さな部品は小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因になります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

設置のときのご注意

⚠ 警告

設置および取り扱い上、以下の点にご注意ください。火災や感電またはケガの原因になります。


水ぬれ禁止


感電注意

- 風呂、シャワー室では使用しないでください。
- 雨天、降雪中、海岸、水辺で使用しないでください。
- 本機の上に液体の入った容器を置かないでください。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。


接触禁止


感電注意

- 雷が鳴り出したら、本機、電源コード、ケーブルに触れないでください。


電源プラグをコンセントから抜け


感電注意

- 本機を移動させる場合は、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間のケーブル類を外してから行ってください。


禁　止


分解禁止

- キャビネットを外したり本機を分解しないでください。内部には電圧の高い部分および温度の高い部分があり、感電ややけどの原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- 本機 (消耗品を含む)・リモコンを分解や改造をしないでください。


禁　止

- 吸気口や排気口等の穴から物などを差し込まないでください。
- 排気口の前にはスプレー缶を置かないでください。熱で缶内の圧力が上がり、爆発の原因となります。
- 使用中は強い光が出ていますので、レンズをのぞかないでください。目を傷める恐れがあります。特に小さなお子様にはご注意ください。


RG2

- 投写中に本機の前で発表する場合は、スクリーンに発表者の影が映らない位置など、まぶしさを感じない位置で行ってください。

⚠ 注 意

設置および取り扱い上、以下の点にご注意ください。


電源プラグを
コンセントから
抜け

- 長期間、機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。


接触禁止


禁　止

- 動作中は排気口周辺や排気口上部のキャビネットが高温になります。やけどの原因になりますので手で触れたりしないでください。特に小さいお子様にはご注意ください。また、金属を置かないでください。高温になり、事故やけがの原因となることがあります。

- 本機の上に重い物をのせたり、乗らないでください。特に小さなお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 動作中、レンズの前に物を置かないでください。火災の原因になることがあります。一時的に映像を中断する場合は、本体の「**BLANK**」機能をご使用ください。（18 ページ、20 ページ、55 ページ）


禁　止



- 本機のレンズ・フィルターなどに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機内部ではランプが高温になっているため、引火による火災の原因になることがあります。


注　意

- 長年のご使用で内部にホコリがたまると火災や故障の原因となることがあります。掃除は梅雨の前が効果的です。費用などは販売店にご相談ください。

ランプについての安全上のご注意

本プロジェクターの光源には、内部圧力の高い水銀ランプを使用しています。この水銀ランプには、次のような性質があります。

- ランプは使用時間の経過による劣化などで、次第に暗くなります。
- 衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などで、大きな音をともなって破裂したり、不点灯状態となって寿命が尽きたりします。

- ランプ交換の指示「ランプを交換する」(83 ページ) が出た場合、ランプが破裂する可能性が高くなっています。すみやかに新しいランプと交換してください。
- ランプの個体差や使用条件によって破裂や不点灯、寿命に至るまでの時間は大きく異なります。使用開始後まもなく破裂したり、不点灯になる場合もあります。
- 万一に備え、あらかじめ交換用のランプをご用意ください。

⚠ 警 告

ランプ交換および破裂したときは、以下の点にご注意ください。感電やけがの原因になります。



- ランプ交換は必ず電源プラグをコンセントから抜いて、45 分以上待ってから行ってください。
  45 分を待たずに触れると熱傷するおそれもあります。





- ランプが破裂した場合は本機の内部にガラス片が散乱している可能性があります。販売店へ本機内部の清掃と点検、ランプの交換を依頼してください。

ランプが点灯しなくなって交換するときのご注意



- 電源投入時や使用中に点灯しなくなったときは、ランプが破裂している可能性があります。その場合、絶対にお客様自身でランプの交換作業は行わず、必ず専門の技術者または販売店に依頼してください。
- 本機を天井から吊り下げて設置している場合、ランプカバーを開けたり、ランプを交換するなどのときは、ランプが落下する可能性があります。ランプの交換作業時は、ランプカバーの真下に立たず、横から作業してください。
- ランプが破裂した場合、ランプ内部のガス（水銀を含有）や粉じんが排気口から出たりすることがあります。すみやかに窓や扉を開け、部屋の換気を行ってください。万一、ランプから生じるガスや破片を吸い込んだり、目や口に入った場合はすみやかに医師にご相談ください。

⚠ 注 意

ランプの取り扱いに際しては、以下の点にご注意ください。


禁 止

- ランプを取り出す際は、本機の電源を切った後、45 分以上経過し、ランプと本体が十分に冷えたことを確認してから行ってください。やけどやけがの原因となることがあります。

リモコンの電池に関するご注意

⚠ 警 告

電池の取り扱いについて以下の点に注意してください。火災やけがの原因となります。


禁 止

- 電池を火の中に入れたり、加熱、ショート、分解したりしないでください。
- 電池は充電しないでください。


注 意

- 電池を使いきったときや、長時間使用しないときは電池を取り外してください。
- ＋と－の向きを正しく入れてください。
- 万一、液漏れなどで電池内部の液体が体についたときは、水でよく洗い流してください。

設置および取り扱い上のご注意

⚠ 警 告


禁 止

- 湿度の高い場所やホコリの立ちやすい場所、油煙やタバコの煙が多い場所には本機を設置しないでください。レンズやミラーなどの光学部品が汚れ、画質が低下する原因となります。また、油はプラスチック部分の劣化をまねき、天井に取り付けたプロジェクターが落下する危険性があります。
- 接着剤、潤滑油、油、アルカリ性洗剤のご使用はお止めください。プラスチックに付着して劣化の原因となるばかりでなく、本機が天井に取り付けられている場合は落下する危険性があります。


注 意

- 本機を天井などの高い場所に設置する場合は、落下防止用ワイヤーなどをお使いください。
- レンズにクリーニングペーパーやクリーナーは使用しないでください。
- レンズのお手入れを開始する前に、必ず本機の電源を切り冷却してください。

3D 視聴についての安全上のご注意

⚠ 注 意

3D 視聴については、以下の点にご注意ください。


禁 止

- 光過敏の既往症のある人、心臓に疾患がある人、妊娠中の女性、高齢者、重い病気にかかっている方、てんかんの発作が起きやすい方は、3D 映像の視聴を控えてください。病状悪化の原因となることがあります。
- 体調不良や、疲れた状態での 3D 視聴を控えてください。他に、睡眠不足、酒気を帯びているときも、3D 映像の視聴を控えてください。
- 以下のような症状が出た場合は、すぐに 3D 視聴を中止し、症状が軽減されるまで休憩してください。
  - 3D 映像を見ている時に、映像が二重に見えたときや、立体感を感じにくいとき。
  - 3D 映像を見ている時に、疲労感や不快感などの体調変化を感じたとき、使用を中止してください。


注 意

- 長時間の使用は、目の疲れの原因になることがありますので、適度に休憩をとってください。長時間の使用や映像を斜めから見ると、眼精疲労などを引き起こす要因となります。
- お子様の 3D 視聴には保護者様が付き添ってください。お子様は、3D 視聴による不快感が生じても、適切に伝えられないことがあるので、保護者様が付き添ってご使用ください。3D 映像の視聴年齢については、およそ 6 歳以上を目安にしてください。
- 3D 映像を見る際は、画面正面の適正な距離で覧ください。画面正面のなるべく適正な距離 (画面縦寸法の約 3 倍以上が目安) から、表示面の水平と両目の水平が近い状態でご覧ください。

正しくお使いいただくために

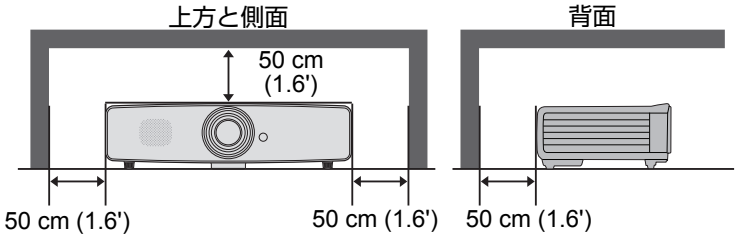
本機を持ち運ぶ際は、以下の点にご注意ください。

注 意

- 本機は精密機器です。衝撃を与えたり、倒したりしないでください。故障の原因になることがあります。
- ご購入時の梱包材や緩衝材にダメージがある場合は、本機の運搬、輸送に再利用しないで下さい。ダメージがある梱包材、緩衝材では十分保護できなかったり、また、緩衝材の破片などが本機内部に入り込んで故障の原因となることがあります。
- 本機の接続ケーブルを外します。ケーブルを取り付けたまま運ぶと、事故の原因となります。
- 調整脚をおさめてください。

設置または使用に際しては、以下の点にご注意ください。

- 本機の吸気口、排気口から壁まで 50cm 以上離して設置してください。排気の影響で故障の原因となることがあります。



* 本書のイラストは、特に記載が無い場合 LX-MW500/LX-MU500 で説明しています。

注 意

- 湿気やホコリ、油煙やタバコの煙が多い場所には設置しないでください。レンズやミラーなどの光学部品に汚れが付着して、画質を損なう原因となることがあります。
- レンズを素手で触らないでください。画質を損なう原因となることがあります。
- 低温の場所から高温の場所へ急に持ち込んだときや、部屋の温度を急に上げたとき、空気中の水分が本機のレンズやミラーに結露して、映像がぼやけることがあります。結露が消えて通常の映像が映るまでお待ちください。
- 高温、低温になる場所に設置しないでください。故障の原因になります。

正しくお使いいただくために

なお使用温度と保管温度の範囲は次の通りです。

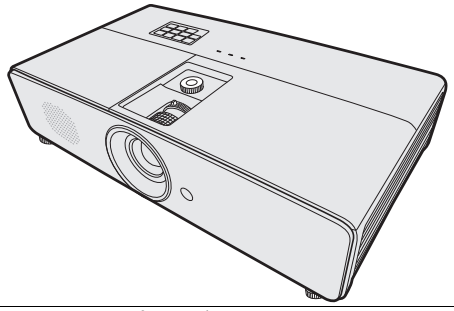
- LX-MW500
  使用温度範囲　0 ℃～ +40 ℃
  使用湿度範囲　10%～ 90%まで（結露なき事）
  保管温度範囲　-20 ℃～ +60 ℃
- LX-MU500
  使用温度範囲　0 ℃～ +40 ℃
  使用湿度範囲　10%～ 80%まで（結露なき事）
  保管温度範囲　-20 ℃～ +60 ℃


注　意

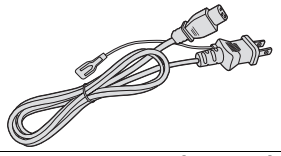
- 高圧電線や電力源の近くに設置しないでください。
- カーペットやスポンジマットなどの柔らかい面の上で本機を使用しないでください。内部に熱がこもり、本機の故障の原因になることがあります。
- 冷却ファンの吸気口および排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと内部に熱がこもりランプの寿命が短くなったり本機の故障の原因になることがあります。
- 熱で変形や変色の恐れのあるものを上に置かないでください。
- 海抜 1,500 メートルを越える高地でプロジェクターを使用する場合は、**[** 高地対応モード **]** をオンにしてください。
- プロジェクターの天板を磨いたり、擦ったりしないでください。表面に傷が付く恐れがあります。

はじめに

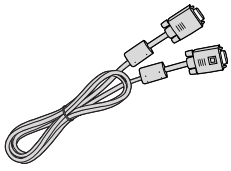
同梱品（付属品の確認）



プロジェクター



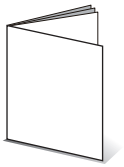
電源コード（1.8 m）



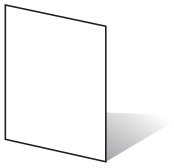
コンピューターケーブル
（1.8 m）(5K.1VC09.501)



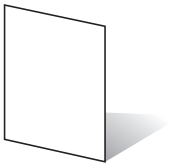
使用説明書



重要なおしらせ



かんたんガイド



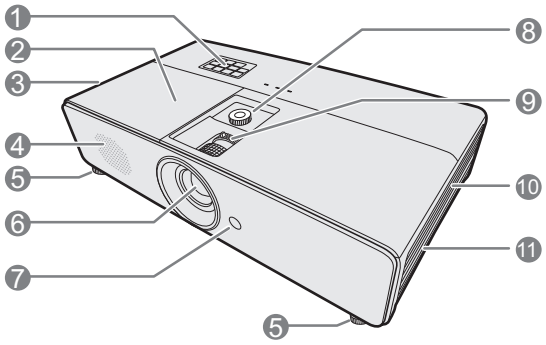
保証書



リモコン
（品番：LV-RC08）
電池（品番：CR2025）

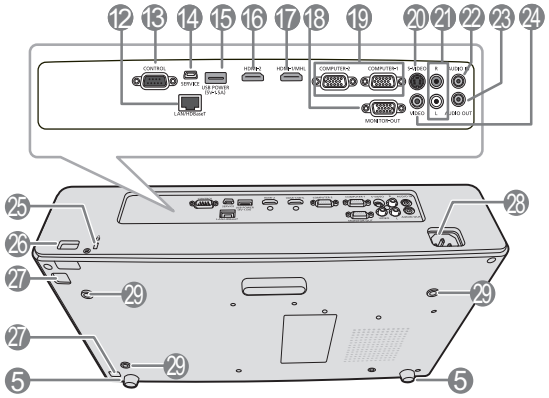
各部のなまえ

正面 / 上面



1. 本体コントロールパネル
   (詳しくは「プロジェクター」(18 ページ) を参照してください。)
2. ランプカバー
3. 排気口
4. スピーカー
5. 調整脚
6. 投写レンズ
7. 前面赤外線リモコン受光部
8. レンズシフト調整部
9. フォーカスリングおよびズームリング
10. 吸気口
11. フィルターカバー

背面 / 底面

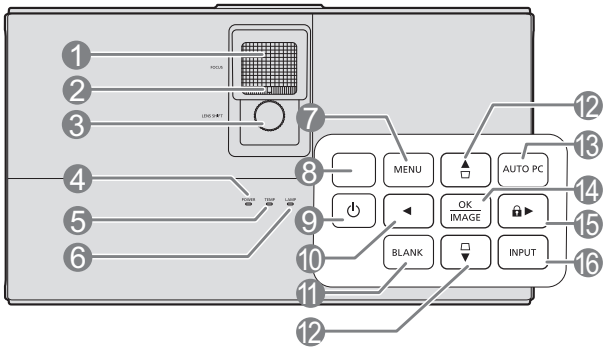


12. LAN/HDBaseT 端子
13. コントロール端子
14. サービス端子 **
15. USB 端子（電源供給用）
16. HDMI 入力端子
17. HDMI/MHL 入力端子
18. モニター出力端子
19. PC 入力端子 x 2
20. S- ビデオ入力端子
21. 音声入力 端子（RCA 端子）
22. 音声入力端子（ミニジャック）
23. 音声出力端子（ミニジャック）
24. ビデオ 入力端子
25. 盗難防止用ケンジントンロック穴
26. セキュリティバー
27. フィルターカバー取り外しボタン
28. 電源コード差し込み口
29. 天吊り金具取り付け穴

****PC** とプロジェクターを **USB** 接続してリモコンから **PC** を操作 **(PageUP/PageDown)** する事ができます。

コントロール部および機能

プロジェクター



1. フォーカスリング
   投写映像の焦点を調整します。詳しくは「投写サイズとピントを調整する」(45 ページ) を参照してください。
2. ズームリング
   映像のサイズを調整します。詳しくは「投写サイズとピントを調整する」(45 ページ) を参照してください。
3. レンズシフト調整部
   投写レンズを上下方向にシフト調整します。詳しくは「投写レンズを上下方向にシフト調整する」(28 ページ) を参照してください。
4. **POWER**（電源インジケーター）
   プロジェクターの動作中に点灯または点滅します。詳しくは「LED インジケーターの表示について」(88 ページ) を参照してください。
5. **TEMP**（温度インジケーター）
   プロジェクターの温度が異常に高くなると赤く点灯します。詳しくは「LED インジケーターの表示について」(88 ページ) を参照してください。
6. **LAMP**（ランプインジケーター）
   ランプの状態を表示します。ランプに問題が発生すると、点灯または点滅します。詳しくは「LED インジケーターの表示について」(88 ページ) を参照してください。
7. **【MENU】**ボタン
   オンスクリーンディスプレイ（以下 OSD）メニューを表示します。前の OSD メニューに戻り、メニューを終了して設定を保存します。詳しくは「メニューの使いかた」(41 ページ) を参照してください。
8. 上部リモコン受光部
9. **【**⏻（電源）**】**ボタン（オン / スタンバイ）
   スタンバイモードと電源オンの状態を切り替えます。詳しくは「プロジェクターを起動する」(40 ページ) および「プロジェクターの電源を切る」(57 ページ) を参照してください。
10. **【**◀（左）**】**ボタン
11. **【BLANK】**ボタン
    映像を消すために使用します。詳しくは「映像を消す」(55 ページ) を参照してください。
12. 台形補正 / 矢印キー
    （▽/▲（上）、△/▼（下））
    投写角度によって生じる映像の歪みを手動で修正します。詳しくは「台形補正」(46 ページ) を参照してください。
13. **【AUTO PC】**ボタン
    自動的に最適な投写状態に調整されます。詳しくは「映像を自動で調整する」(45 ページ) を参照してください。
14. **【OK/IMAGE】**ボタン
    OSD メニューで選んだ項目を確定します。
    イメージモードを選択します。詳しくは「イメージモードの選択」(50 ページ) を参照してください。

15.【▶（右）/🔒】ボタン

パネルキーロックを有効にします。詳しくは「コントロールキーをロックする」(55 ページ) を参照してください。

OSD メニューが有効な場合、#10、#12、#15 キーを方向指示のボタンとして使用し、メニュー項目の選択や調整を行います。

詳しくは「メニューの使いかた」(41 ページ) を参照してください。

16.【**INPUT**】ボタン

入力信号の選択画面を表示します。詳しくは「入力信号を切り替える」(44 ページ) を参照してください。

MHL 機器を接続した場合

プロジェクターと MHL 機器を接続し、プロジェクターの OSD メニューが非表示の場合、次のボタンは MHL 機器側のメニュー操作に使用できます。

矢印キー、【**OK/IMAGE**】ボタン、【**AUTO PC**】ボタン

10、12、15 [▲上、▼下、◀左、▶右] ボタン

これらの矢印ボタン (10、12、15 参照) は MHL 機器側のメニューの方向指示に使用できます。

14. 【**OK/IMAGE**】ボタン

MHL 機器側のメニューの「選択」に使用できます。

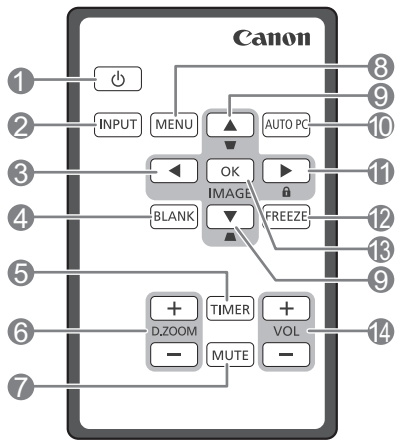
13.【**AUTO PC**】ボタン

MHL 機器側のメニューの「戻る」または「EXIT」に使用できます。

MHL 接続モードにするには、プロジェクターと MHL 機器を接続し（詳しくは「MHL 機器と接続する」(33 ページ) を参照)、入力信号を HDMI/MHL に切り替えます (詳しくは「入力信号を切り替える」(44 ページ) を参照)。

MHL 機器の接続については注意が必要です（詳しくは「MHL 機器と接続する」(33 ページ) を参照してください)。

リモコン



1. 【⏻(電源)】ボタン（オン / スタンバイ）
   スタンバイモードと電源オンの状態を切り替えます。詳しくは「プロジェクターを起動する」(40 ページ) および「プロジェクターの電源を切る」(57 ページ) を参照してください。
2. **【INPUT】**ボタン
   入力信号の選択画面を表示します。詳しくは「入力信号を切り替える」(44 ページ) を参照してください。
3. 【◀(左)】ボタン
   メニュー項目の選択や調整を行います。詳しくは「メニューの使いかた」(41 ページ) を参照してください。
4. **【BLANK】**ボタン
   映像を消すために使用します。詳しくは「映像を消す」(55 ページ) を参照してください。
5. **【TIMER】**ボタン
   オンスクリーンタイマーの基本設定の一部を有効にしたり、調整を行います。詳しくは「【TIMER】ボタンの使いかた」(55 ページ) を参照してください。
6. **【D.ZOOM】**ボタン（**+**、**–**）**
   投写映像の一部を拡大します。詳しくは「映像を拡大して見るには」(48 ページ) を参照してください。
7. **【MUTE】**ボタン
   音声を一時的に消します。詳しくは「音量を調整する」(56 ページ) を参照してください。
8. **【MENU】**ボタン
   OSD メニューをオンにします。前の OSD メニューに戻り、メニューを終了して設定を保存します。詳しくは「メニューの使いかた」(41 ページ) を参照してください。
9. 台形補正 / 矢印キー
   (▽/▲(上)、△/▼(下))
   投写角度によって生じる映像の歪みを手動で修正します。詳しくは「台形補正」(46 ページ) を参照してください。
10. **【AUTO PC】**ボタン
    自動的に最適な投写状態に調整されます。詳しくは「映像を自動で調整する」(45 ページ) を参照してください。
11. 【▶(右) / 🔒】ボタン
    パネルキーロックを有効にします。詳しくは「コントロールキーをロックする」(55 ページ) を参照してください。
    OSD メニューが有効な場合、#3、#9、#11 キーを方向指示のボタンとして使用し、メニュー項目の選択や調整を行います。詳細は「メニューの使いかた」(41 ページ) を参照してください。

****PC** とプロジェクターが **USB** 接続されている場合は、リモコンから **PC** を操作する機能 **(PageUP/PageDown)** になります。

12.【FREEZE】ボタン

投写映像を一時的に静止させます。詳しくは「映像を静止する」(56 ページ) を参照してください。

13.【OK/IMAGE】ボタン

オンスクリーンディスプレイ（以下 OSD）メニューで選んだ項目を確定します。

有効な映像の設定モードを選択します。詳しくは「イメージモードの選択」(50 ページ) を参照してください。

14. 音量キー（**+**、**–**）

音量を調整します。詳しくは「音量を調整する」(56 ページ) を参照してください。

MHL 機器を接続した場合

プロジェクターと MHL 機器を接続し、入力信号選択が HDMI/MHL の場合、次のボタンは MHL 機器側のメニュー操作に使用できます（ただし、プロジェクターの OSD メニューが非表示の時に限ります）。

3、9、11 [▲上、▼下、◀左、▶右] ボタン

これらの矢印ボタン (3、9、11 参照) は MHL 機器側のメニューの方向指示に使用できます。

10.【AUTO PC】ボタン

MHL 機器側のメニューの「戻る」または「EXIT」に使用できます。

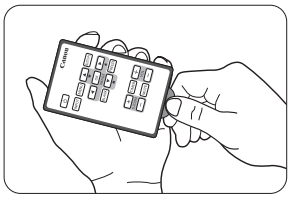
13. 【OK/IMAGE】ボタン

MHL 機器側のメニューの「選択」に使用できます。

MHL 接続モードにするには、プロジェクターと MHL 機器を接続し（詳しくは「MHL 機器と接続する」(33 ページ) を参照)、入力信号を HDMI/MHL に切り替えます (詳しくは「入力信号を切り替える」(44 ページ) を参照)。

初めてリモコンを使用するときは

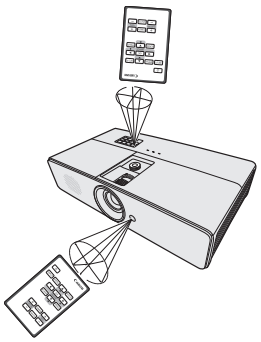
タブを引き抜いてからリモコンを使用します。



リモコンの有効範囲

赤外線リモコン受光部は、プロジェクターの正面と上面にあります。また、リモコンと受光部の距離が 8m 以内で使用してください。

リモコンとプロジェクターのリモコン受光部との間に赤外線を遮断する障害物がないことを確認してください。

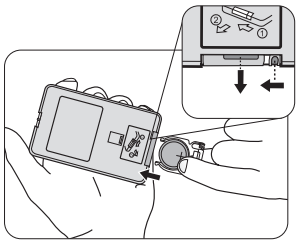


⚠
- リモコンとプロジェクターの間に障害物があると、リモコンによる操作ができないことがあります。
- リモコンの受光部に直射日光や照明の光などが直接当たると、リモコンによる操作ができないことがあります。

リモコンの電池の交換

1. バッテリーホルダーを取り出します。

☞ 図に示す手順にしたがってください。ツマミを左に押しながら、バッテリーホルダーを引き出してください。



2. 新しい電池を挿入します。このときプラス（+）極が外側を向くように挿入してください。
3. バッテリーホルダーをリモコンに押し込みます。

⚠
- 指定以外の電池を使用すると、発熱、破損する恐れがあります。
- 使用済みの電池は、使用説明書の指示に従って廃棄してください。
- 指定以外の電池を使用すると破裂する恐れがあります。使用できる電池は **CR2025** タイプのリチウムコイン電池のみです。
- 使用済みの電池は、お住まいの地域の条例に従って廃棄してください。使用済みの電池はすぐに廃棄してください。電池は取り扱いを誤ると破裂する恐れがあります。充電、分解、火に入れるなどしないでください。
- 電池は使用説明書の指示に従い、注意して取り扱ってください。
- 電池はプラス（+）とマイナス（−）の向きに注意し、リモコンに示されている向きに従って正しく入れてください。
- 電池やバッテリーホルダーは子供の手の届かない場所に保管してください。電池やバッテリーホルダーを飲み込んでしまった場合は直ちに医師に診てもらってください。
- リモコンを長期間ご使用しないときは、電池をリモコンから取り出しておいてください。
- 使用済み電池は端子部をセロハンテープで絶縁してから廃棄してください。
- 電池が液漏れを起こし、皮膚などに触れた場合は水でよく洗い流してください。

第三者のソフトウェアについて

この製品には、以下に示す第三者のソフトウェアモジュールが含まれています。

- uIP (micro IP) version 0.9

ライセンス条件につきましては、以下のライセンステキストをご確認ください。

Copyright (c) 2001-2003, Adam Dunkels.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

第三者のソフトウェアのサポート

キヤノン株式会社、キヤノンの関係会社、および販売会社は、本プログラムに関するいかなるサポートサービスもいたしません。本プログラムに関する、お客様もしくは他のいかなるお客様からのご質問やお問い合わせにもご回答いたしかねます。

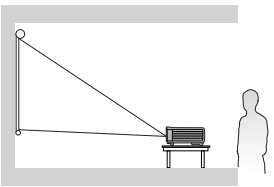
プロジェクターを設置する

設置場所を決める

部屋のレイアウトやお好みで、プロジェクターをどのように設置するか決めます。設置するときは、スクリーンのサイズや位置、電源コンセントがある場所、プロジェクターとその他の機器の距離や位置などを考慮してください。

本機は次のいずれかの方法で設置することができます。

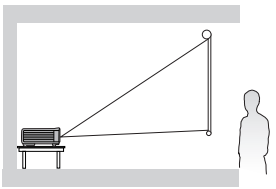
1. 前面投写
プロジェクターをスクリーンの正面、床面近くに設置する方法です。設定が速く、持ち運びもしやすいため、これが最も一般的な方法です。



2. リア投写
プロジェクターをスクリーンの背面、床面近くに設置する方法です。

専用の背面投写スクリーンが必要です。

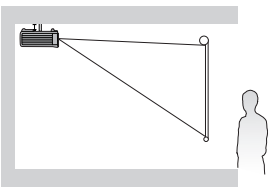
プロジェクターの電源を入れ、
[システム設定 : 基本 **]>[** 反転表示 **]** メニューで **[** リア投写 **]** を設定してください。



3. リア・天吊り投写
プロジェクターを天井から吊り下げて、スクリーンの背面に設置する方法です。

専用の背面投写スクリーンと、天吊り金具が必要です。

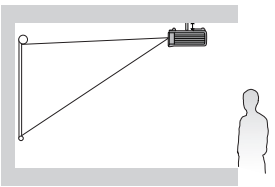
プロジェクターの電源を入れ、
[システム設定 : 基本 **]>[** 反転表示 **]** メニューで **[** リア・天吊り投写 **]** を設定してください。



4. 天吊り投写
プロジェクターを天井から吊り下げて、スクリーンの正面に設置する方法です。

プロジェクターを天井に取り付ける場合は、プロジェクターの販売店にご相談ください。

プロジェクターの電源を入れ、
[システム設定 : 基本 **]>[** 反転表示 **]** メニューで **[** 天吊り投写 **]** を設定してください。



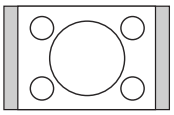
天井から吊り下げる場合は、本機に合った天吊り金具が必要です。取り付けは専門の技術者に依頼してください。詳しくは、販売店へお尋ねください。

- 上記以外でプロジェクターを天井から吊り下げたり、天吊り金具を不適切な場所に設置し、生じた故障については保証できません。
- プロジェクターを天井から吊り下げると、床面近くに設置した場合に比べて映像が暗くなる場合がありますが、製品の異常ではありません。

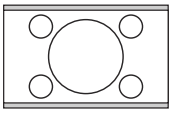
画面サイズを調整する

画面サイズは投写距離やズーム設定、およびビデオフォーマットにより変化します。

LX-MU500/LX-MW500 の本来の縦横比は 16:10 です。縦横比 16:9（ワイドスクリーン）の映像を完全に投写するために、本機はワイドスクリーン映像をプロジェクターの本来の幅に合わせて調整することができます。この調整により、高さがプロジェクターの本来の高さの 90% に縮小されます。



縦横比 16:10 のスクリーンに投写した 4:3 の映像



縦横比 16:10 のスクリーンに投写した 16:9 の映像

つまり、16：9 の映像を 16:10 のスクリーンに投写するとスクリーンの上下各 5% の領域は、黒いバーで表示されます。

プロジェクターは机の上などの平らな場所に設置し、レンズがスクリーンと平行になるよう設置して下さい。

スクリーンに対し、斜めから投写した場合、映像にゆがみが生じることがあります。

この場合は、台形補正を使用してひずみを補正します。詳しくは「台形補正」(46 ページ) を参照してください。

スクリーンとプロジェクターの距離を決めるときは、投写距離に比例した投写サイズと縦オフセットのサイズも考慮する必要があります。

投写映像に細い線が出る場合

スクリーンの表面で生じる光の干渉によるもので、故障ではありません。

スクリーンサイズからプロジェクターの設置場所を決定する

1. 画像サイズを選択します。
2. 27 ページの表の「画面サイズ」欄から、使用するスクリーンサイズに近いスクリーンサイズを探します。このサイズの列を右に見ていくと、「投写距離：L」という欄にスクリーンからの距離が記載されています。これが投写距離になります。
3. 同じ列をさらに右に見ていくと、「Hd」数値が記載されています。「Hd」値は、スクリーンの下端からの縦オフセット位置を表しています。
4. プロジェクターの設置は、スクリーンの水平方向中心に対し垂直にし、手順 2 で決定したスクリーンからの距離と、手順 3 で決定したオフセット値で設置してください。

< 例 >

LX-MU500：100 インチの 16:10 のスクリーンを使用する場合、投写距離は 2.4 m、ズームポジションワイドの縦オフセットは 7.0 cm となります。

プロジェクターを上下に傾けて設置した場合、映像にひずみが生じる場合があります。この場合は、台形補正を使用してひずみを補正します。詳しくは「台形補正」(46 ページ) を参照してください。

設置する距離から推奨するスクリーンサイズを決定する

本機を設置する部屋に合ったスクリーンサイズの決めかたについてです。

1. 設置するプロジェクターとスクリーンまでの間の距離を測ります。これが投写距離になります。
2. 27 ページの表の「画面サイズ」欄から、使用するスクリーンサイズに近いスクリーンサイズを探します。最小値と最大値が記載されている場合、スクリーンからの距離が投写距離に記載される最大距離と最小距離の間にあることを確認してください。
3. この行をさらに左へ見ていくと、「画面サイズ」が記載されています。これが投写距離における投写映像サイズになります。
4. 同じ行を右に見ていくと、「Hd」値が記載されています。この値から、プロジェクターの設置場所を決めることができます。

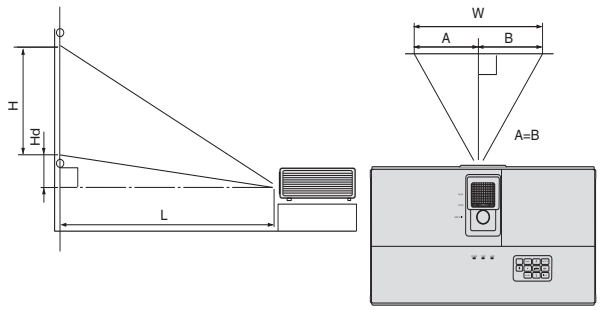
< 例 >

LX-MU500：投写距離が 2.5 m あり、スクリーンの縦横比が 16:10 の場合、「投写距離：L」欄の最も近い値は、2.2~3.5 m となります。この行を横（左）にたどり（「画面サイズ」の欄をみると）、70~100 型が必要なスクリーンであることが分かります。

プロジェクターの配置

画面サイズは、スクリーンとプロジェクターとの距離（投写距離）によって異なります。

正面投写



L：投写距離
H：画面サイズ（高さ）

LX-MW500 (16:10)

画面サイズ						投写距離：L				Hd	
対角サイズ		幅：W		高さ：H		ワイド端		テレ端			
インチ	cm	インチ	cm	インチ	cm	インチ	m	インチ	m	インチ	cm
60	152	51	129	32	81	57	1.4	91	2.3	1.6	4
70	178	59	151	37	94	67	1.7	106	2.7	1.9	5
80	203	68	172	42	108	76	1.9	122	3.1	2.1	5
90	229	76	194	48	121	86	2.2	137	3.5	2.4	6
100	254	85	215	53	135	95	2.4	152	3.9	2.6	7
120	305	102	258	64	162	114	2.9	182	4.6	3.2	8
150	381	127	323	79	202	143	3.6	228	5.8	4.0	10
200	508	170	431	106	269	190	4.8	–	–	5.3	13
240	610	204	517	127	323	228	5.8	–	–	6.4	16

LX-MU500 (16:10)

画面サイズ						投写距離：L				Hd	
対角サイズ		幅：W		高さ：H		ワイド端		テレ端			
インチ	cm	インチ	cm	インチ	cm	インチ	m	インチ	m	インチ	cm
60	152	51	129	32	81	54	1.4	87	2.2	0.8	2
70	178	59	151	37	94	63	1.6	101	2.6	0.9	2
80	203	68	172	42	108	72	1.8	116	2.9	1.1	3
90	229	76	194	48	121	81	2.1	130	3.3	1.2	3
100	254	85	215	53	135	91	2.3	145	3.7	1.3	3
120	305	102	258	64	162	109	2.8	174	4.4	1.6	4
150	381	127	323	79	202	136	3.4	217	5.5	2.0	5
200	508	170	431	106	269	181	4.6	–	–	2.6	7
240	610	204	517	127	323	217	5.5	–	–	3.2	8

☞数値はおおよその値で、実際の計測とは誤差が生じる場合があります。プロジェクターを固定して設置する場合、光学上の特性を考慮し、実際にプロジェクターを使って投写サイズと投写距離を測っておくことをお薦めします。設置する前に計測しておくことで、プロジェクターを最適な位置に設置することができます。

投写レンズを上下方向にシフト調整する

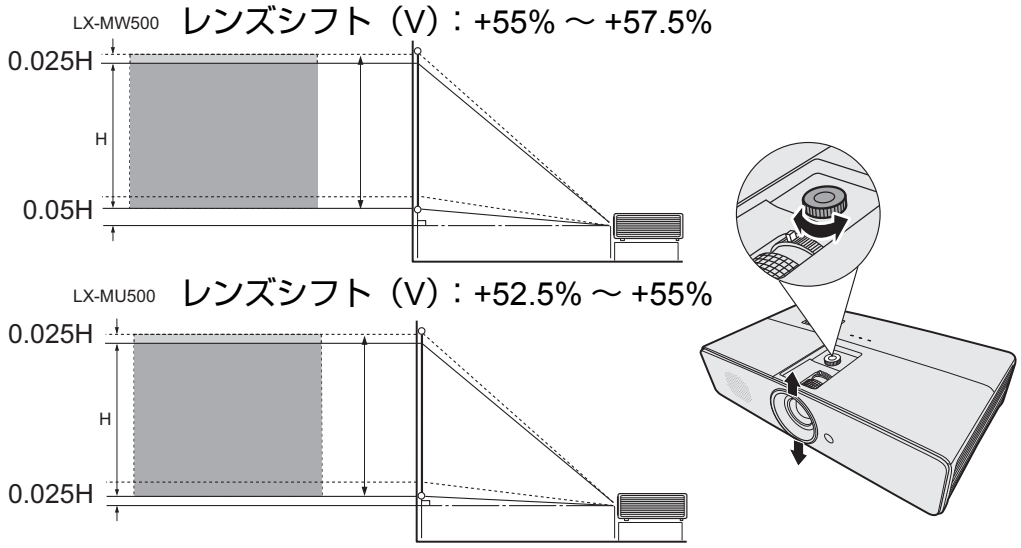
上下方向のレンズシフト調整により、柔軟なプロジェクターの設置が可能になります。プロジェクターは、投写映像の上端の少し上または下端の少し下まで微調整できます。

レンズシフト調整部を使って、投写レンズを上下方向にシフトします。シフト可能範囲は、お好みの映像位置によります。

レンズシフト調整部を使用するには

ホイールを回して、投写映像の位置を調整します。

レンズシフト調整可能範囲



- レンズシフト調整部を無理に回しすぎないでください。
- レンズシフト調整により画質が低下することはありません。

接続する

投写する機器をプロジェクターに接続するときは、以下を確認してください。

1. 接続する前にすべての機器の電源を切ります。
2. 各機器を正しい接続ケーブルで接続します。
3. ケーブルがしっかりと差し込まれていることを確認します。

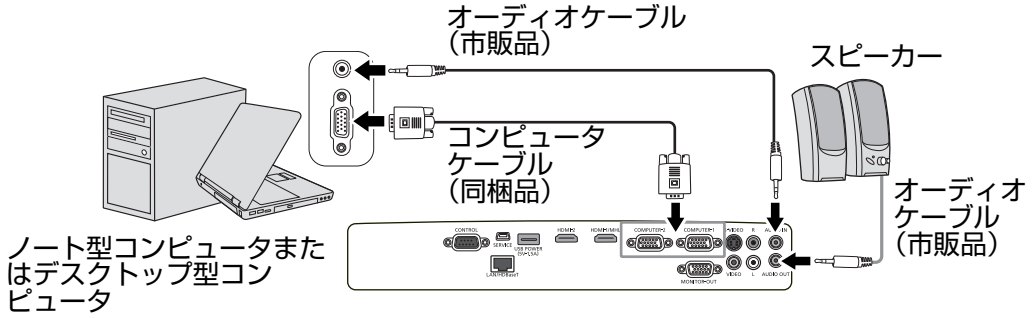
☞
- 各機器との接続方法については、それぞれの使用説明書を参照してください。
- 接続方法の詳細については、販売店にご相談ください。
- 以下に示す接続図では、一部のケーブルは同梱されていません。ケーブルはお近くの電気店でお求めください。

コンピュータまたはモニタを接続する

コンピュータを接続する

コンピュータを接続するには

1. 付属のコンピュータケーブルをコンピュータの D-Sub 出力端子に接続します。
2. もう片方をプロジェクターの **COMPUTER-1** または **COMPUTER-2** 入力端子に差し込みます。
3. プレゼンテーションなどでプロジェクターのスピーカーを使用するときは、対応するオーディオケーブルを使い、コンピュータのオーディオ出力端子とプロジェクターの **AUDIO IN** 端子を接続します。
4. 別のオーディオケーブルを使い、プロジェクターの **AUDIO OUT** 端子と外付けのスピーカー（市販品）を接続することができます。
   接続したら、プロジェクターの OSD メニューを使ってオーディオの操作ができます。詳しくは「音量を調整する」(56 ページ) を参照してください。
   下図のような接続になります。



☞ ノート型コンピュータでは、プロジェクターと接続するだけでは投写できないことがあります。通常は「**FN**」キー **+**「**F3**」キーや **CRT/LCD** ファンクションキーとの組み合わせで、投写することができます。**CRT/LCD** ファンクションキー、またはモニタの記号が示されたファンクションキーを確認し、「**FN**」キーと同時に押します。

ファンクションキーなどキーの組み合わせについては、ノート型コンピュータの使用説明書をご覧ください。

- 付属のコンピュータケーブルよりも長いケーブルを使用する場合、映像が正しく投写されないことがあります。

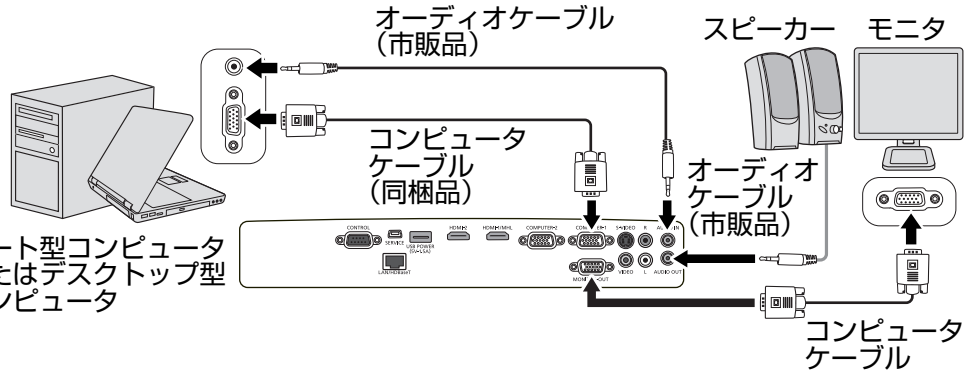
- お使いのコンピュータによっては、端子を追加したり、アナログの **RGB** 出力アダプターが必要になる場合があります。

モニタを接続する

スクリーンと同様に、モニタにプレゼンテーションを大写しで表示する場合は、外部モニタとプロジェクターの **MONITOR-OUT** 端子を接続します。

モニタを接続するには

1. 付属のコンピュータケーブルをコンピュータの D-Sub 出力端子に接続します。
2. もう片方をプロジェクターの **COMPUTER-1** 入力端子に差し込みます。
3. 別のコンピュータケーブルを外部モニタに接続し、もう片方をプロジェクターの **MONITOR-OUT** 端子に差し込みます。
4. プレゼンテーションなどでプロジェクターのスピーカーを使用するときは、対応するオーディオケーブルを使い、コンピュータのオーディオ出力端子とプロジェクターの **AUDIO IN** 端子を接続します。
5. 別のオーディオケーブルを使い、プロジェクターの **AUDIO OUT** 端子と外付けのスピーカー（市販品）を接続することができます。
   接続したら、プロジェクターの OSD メニューを使ってオーディオの操作ができます。詳しくは「音量を調整する」(56 ページ) を参照してください。
   下図のような接続になります。



☞入力信号やケーブルの種類によっては、映像が正しく表示されない場合があります。

ビデオ機器（AV 機器）を接続する

次の出力端子を持ったビデオ機器を接続することができます。

- HDMI/MHL 端子
- コンポーネントビデオ端子
- S ビデオ端子
- ビデオ端子

使用する出力端子によっては、投写される映像の画質が異なります。プロジェクターとビデオ機器（AV 機器）を接続するときには、同じ種類の端子を使ってください。

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）ケーブルを使用し、TV チューナーや DVD プレーヤーなどのビデオ機器（AV 機器）と接続すると、映像データを未圧縮のまま投写することができます。

プロジェクターと HDMI 機器の接続については、「HDMI 機器を接続する」(32 ページ) を参照してください。

TV チューナーや DVD プレーヤーなどのコンポーネントビデオ機器（AV 機器）は、コンポーネント信号で出力することができます。プロジェクターとコンポーネントビデオ機器（AV 機器）の接続方法については、「コンポーネントビデオ機器を接続する」(34 ページ) を参照してください。

接続するビデオ機器にビデオ端子と S ビデオ端子がついている場合は、S ビデオ端子で接続してください。プロジェクターと S ビデオ機器の接続については、「S ビデオ機器を接続する」(35 ページ) を参照してください。

プロジェクターとビデオ機器の接続については、「ビデオ機器を接続する」(35 ページ) を参照してください。

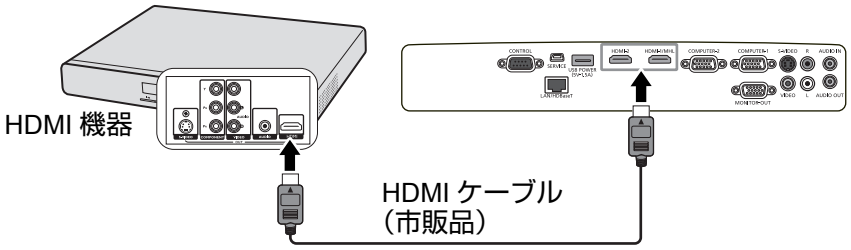
HDMI 機器を接続する

プロジェクターの HDMI 入力端子に接続する Blu-Ray プレーヤーなどの HDMI 機器の映像を投写することができます。

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は Blu-Ray プレーヤーなどの対応するデバイスとデバイスの間を 1 本のケーブルで接続し、高品質な映像と音声をお楽しみいただけます。

プロジェクターを **HDMI** 機器に接続するには

1. HDMI ケーブルを HDMI 機器の HDMI 出力端子に接続します。
2. HDMI ケーブルのもう片端をプロジェクターの HDMI または、HDMI/MHL 入力端子に接続します。
   下図のような接続になります。



☞プロジェクターと **HDMI** 機器（**DVD** プレーヤーなど）を **HDMI** ケーブルで接続する場合、接続するデジタル機器によっては、黒が濃く暗く表示される場合があります。

• この現象は接続したデジタル機器の黒のレベルの設定によるものです。黒レベルの異なる２種類の信号伝送方式があり、どちらの方式で出力するかは、使用する **DVD** プレーヤー（デジタル機器）によって変わります。

• 一部の **DVD** プレーヤー（デジタル機器）では、デジタル信号の出力方法を切り替えることができます。このような **DVD** プレーヤー（デジタル機器）を使用する場合は、次のように設定してください。

拡張→標準

• 詳しくは、**DVD** プレーヤー（デジタル機器）の取扱説明書を参照してください。

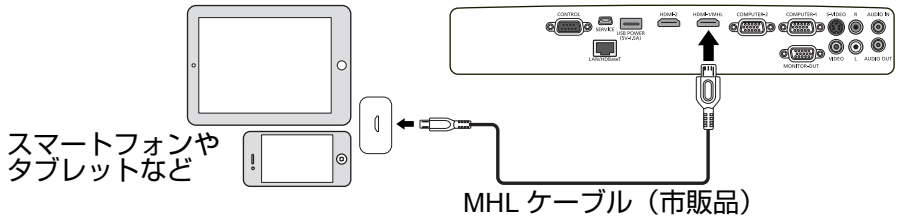
•**HDMI** の入力に切り替える場合、約 **1** 秒間投写映像の色が正しく表示されない場合がありますが、これは製品の異常ではありません。

MHL 機器と接続する

プロジェクターと MHL 機器（スマートフォンやタブレットなど）を接続するには MHL ケーブルが必要です。

プロジェクターと **MHL** 機器を接続するには：

1. **MHL** 機器の MHL 出力端子に MHL ケーブルを接続します。
2. MHL ケーブルのもう一端をプロジェクターの HDMI/MHL 入力端子に接続します。
   下図のような接続になります。



☞ プロジェクターと **MHL** 機器を接続し、入力信号選択が **HDMI/MHL** の場合、プロジェクター本体のコントロール部およびリモコンを用いて、**MHL** 機器の基本操作を行うことができます。詳しくは「コントロール部および機能」**(18** ページ **)** を参照してください。

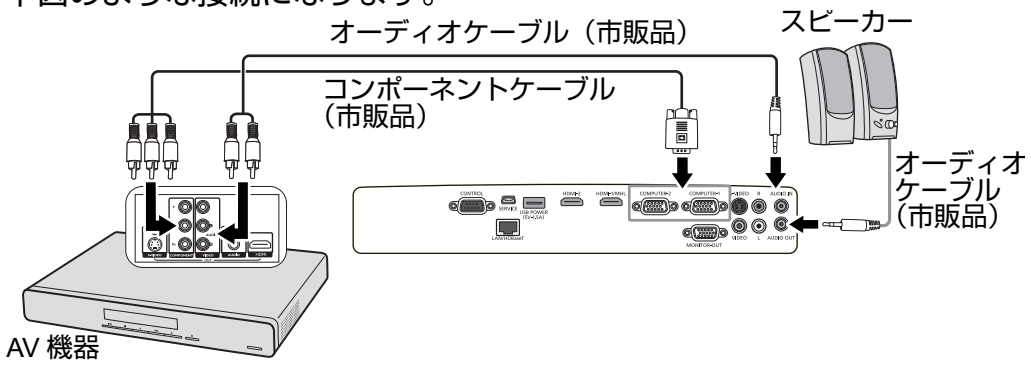
⚠
- **MHL** ケーブル **(** 市販品 **)** および **MHL-HDMI** 変換アダプター **(** 市販品 **)** は **MHL** の規格に適合したものを使用してください。規格に適合していないものを使用した場合、映像を投写できない、または接続機器の故障、発熱の原因になることがあります。
- 接続機器の機種や設定によっては正しく表示できないことがあります。
- 接続機器によってはプロジェクター本体のコントロール部およびリモコンを用いた操作を行った際の動作が異なる、または動作しない場合があります。
- **MHL-HDMI** 変換アダプター **(** 市販品 **)** を使用した場合、本機のコントロール部およびリモコンを用いた接続機器の操作はできません。
- 映像がうまく投写できない場合は、**HML** ケーブルを抜き差ししてください。
- すべての接続機器での動作を保証するものではありません。

コンポーネントビデオ機器を接続する

プロジェクターの PC 入力端子にコンポーネントケーブル (3RCA- ミニ D-sub15 ピン)(市販品) を接続すると、コンポーネントビデオの映像を投写することができます。

プロジェクターをコンポーネントビデオ機器に接続するには

1. コンポーネントケーブルの 3 個の RCA タイプコネクタが付いた方をビデオ機器のコンポーネントビデオ出力端子に差し込みます。プラグの色と端子の色を合わせてください。
2. もう片端をプロジェクターの **COMPUTER-1** または **COMPUTER-2** 端子に差し込みます。
3. スピーカーを使用する場合は、オーディオケーブルを使い、コンピュータのオーディオ出力端子とプロジェクターの **AUDIO IN** 端子に接続します。
4. オーディオケーブルをもう一本使い、プロジェクターの **AUDIO OUT** 端子と外付けスピーカー（市販品）を接続することができます。
   接続したら、プロジェクターの OSD メニューを使ってオーディオの操作をすることができます。詳しくは「音量を調整する」(56 ページ) を参照してください。
   下図のような接続になります。



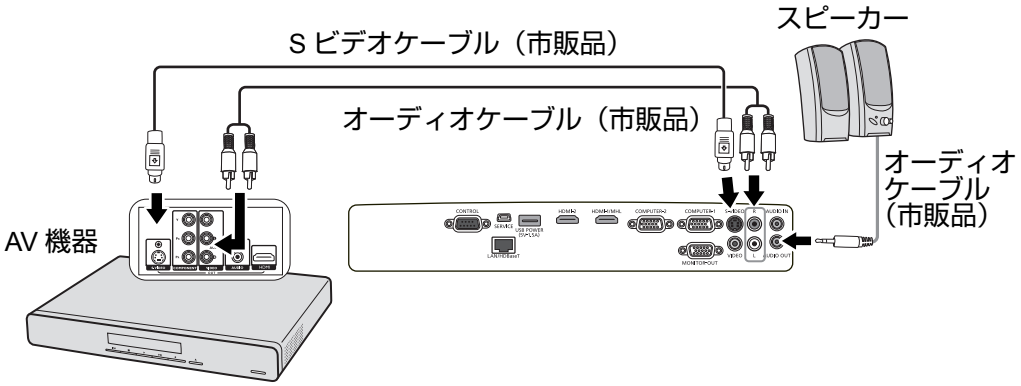
☞ プロジェクターの電源を入れても接続したビデオ機器の映像が表示されない場合は、ビデオ機器の電源が入っており、正しく動作していることを確認してください。また、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

S ビデオ機器を接続する

本機の **S-VIDEO** 入力端子に S ビデオケーブル (市販品) を接続すると、S ビデオの映像を投写することができます。

プロジェクターを **S** ビデオ機器に接続するには

1. S ビデオケーブルをビデオ機器の S ビデオ出力端子に差し込みます。
2. もう片端をプロジェクターの **S-VIDEO** 入力端子に接続します。
3. スピーカーを使用する場合は、オーディオケーブルを使い、ビデオ機器のオーディオ出力端子とプロジェクターの **L/R** 端子に接続します。
4. オーディオケーブルをもう一本使い、プロジェクターの **AUDIO OUT** 端子と外付けスピーカー（市販品）を接続することができます。
   接続したら、プロジェクターの OSD メニューを使ってオーディオの操作をすることができます。詳しくは「音量を調整する」(56 ページ) を参照してください。
   下図のような接続になります。



☞• プロジェクターの電源を入れても、接続したビデオ機器の映像が表示されない場合は、ビデオ機器の電源が入っており、正しく動作していることを確認してください。また、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

- コンポーネントビデオ接続により、プロジェクターと **S** ビデオ機器を接続しているときに、**S** ビデオ接続を行うと画質が悪くなることがあります。詳しくは「ビデオ機器（**AV** 機器）を接続する」**(31** ページ **)** を参照してください。
- **1** 台の出力機器からビデオと **HDMI** など **2** 系統で接続しないでください。

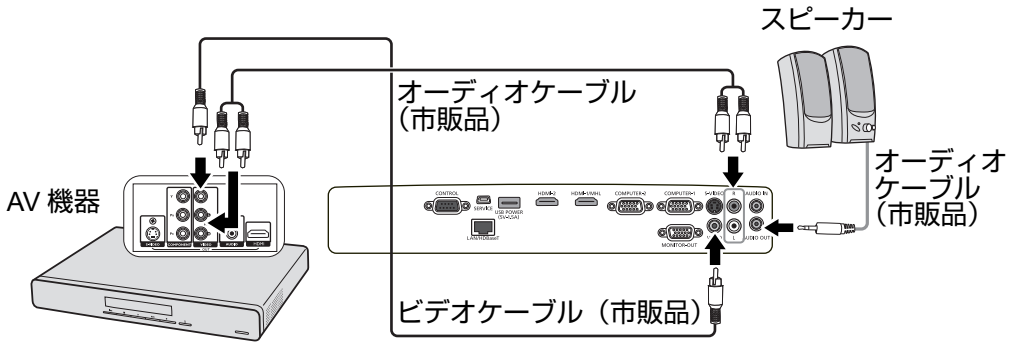
ビデオ機器を接続する

本機のビデオ入力端子に接続するとビデオ機器などの映像を投写することができます。

プロジェクターをビデオ機器に接続するには

1. ビデオケーブルの一方をビデオ機器のビデオ出力端子に差し込みます。
2. もう片端をプロジェクターの **VIDEO** 入力端子に接続します。
3. スピーカーを使用する場合は、オーディオケーブルを使い、ビデオ機器のオーディオ出力端子とプロジェクターの **L/R** 端子に接続します。

4. オーディオケーブルをもう一本使い、プロジェクターの **AUDIO OUT** 端子と外付けスピーカー（市販品）を接続することができます。
接続したら、プロジェクターの OSD メニューを使ってオーディオの操作をすることができます。詳しくは「音量を調整する」(56 ページ) を参照してください。
下図のような接続になります。



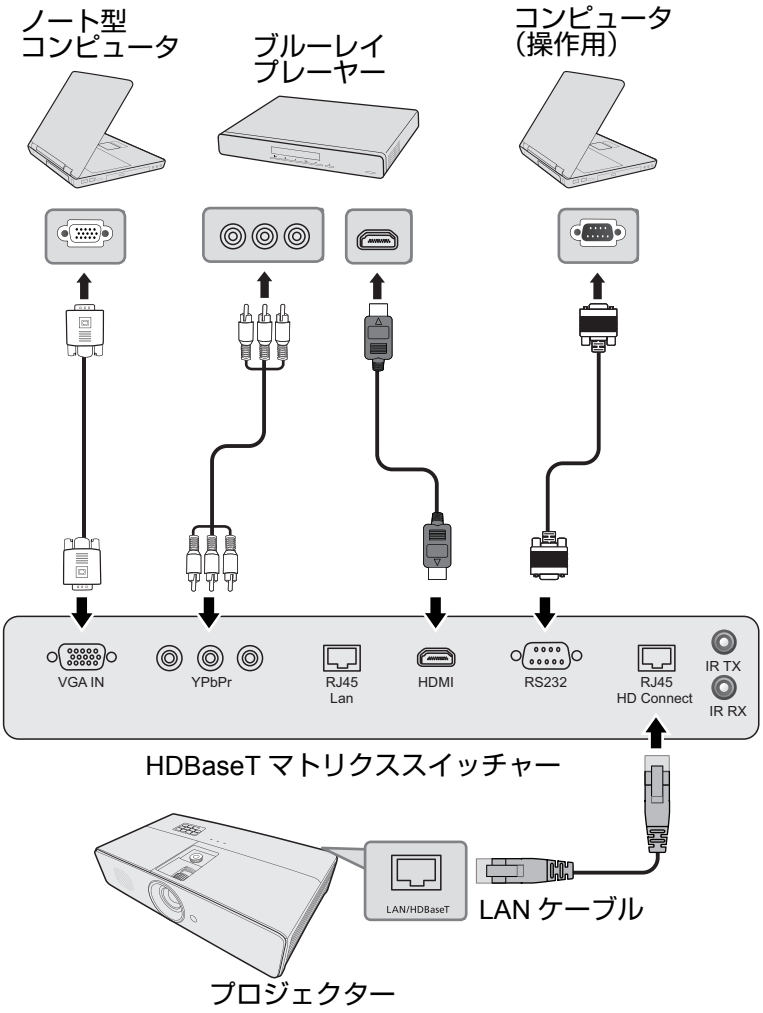
☞• プロジェクターの電源を入れても接続したビデオ機器の映像が表示されない場合は、ビデオ機器の電源が入っており、正しく動作していることを確認してください。また、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

- コンポーネントビデオ接続、または **S** ビデオ接続を使用できない場合は、ビデオ接続で接続してください。詳しくは「ビデオ機器（**AV** 機器）を接続する」**(31** ページ **)** を参照してください。
- **1** 台の出力機器からビデオと **HDMI** など **2** 系統で接続しないでください。

HDBaseT 経由でさまざまな機器と接続する

HDBaseT は、HD デジタルビデオ、オーディオ、イーサネット、および各種制御信号と通信できる接続規格です。これらの信号を、CAT5e 以上のケーブル 1 本で最長 100 メートルの距離まで伝送できます。HDBaseT 伝送機器（市販）を使用することにより、HDBaseT 接続を使って、プロジェクターに複数の機器を接続することができます。

- **RJ45** ケーブルを接続する場合、ケーブルを巻いた状態にしたり、絡んだりさせないでください。信号ノイズや中断の原因となることがあります。
- 下の図は参考例です。実際の配置は変更になることがあります。



HDBaseT について

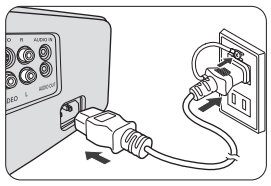
- **LAN** ケーブルはカテゴリー **5e** 以上（シールドタイプ対応）を使用してください。
- 伝送可能な距離は最長 **100**m です。
- ご使用の環境によって伝送距離が短くなることがあります。
- **LAN** ケーブルは巻いたり、束ねた状態で使用しないでください。

- 投写中に **LAN** ケーブルを抜き差しすると、ノイズが発生する場合があります。
- 本機は市販されているすべての **HDBaseT** 伝送機器との接続を保証するものではありません。
- 一部の **HDBaseT** 伝送機器を経由して、入力機器を本プロジェクターに接続した場合、正常に表示できないことがあります。
- スタンバイ時には、**HDBaseT** 経由でのコマンドを受け付けられません。

メニューによる機能設定

プロジェクターを起動する

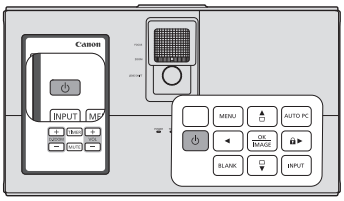
1. 電源コードをプロジェクターとコンセントに差し込みます。電源を入れたら、**POWER**（電源インジケーター）がオレンジ色に点灯することを確認してください。



⚠ • プロジェクターを使用しないときは、電源コードを抜いてプロジェクターの電源を落としてください。

- 感電や火災などを避けるために、プロジェクターの付属品のケーブルを使用してください。
- 安全のために漏電ブレーカーが付いているコンセントをご使用ください。

2. プロジェクターかリモコンの【⏻（電源）】ボタンを押してプロジェクターを起動します。
POWER（電源インジケーター）が緑色に点滅し、電源が入ると、緑色に点灯します。
起動処理には約 30 秒かかります。起動処理の後半で、スタートアップロゴが表示されます。
必要に応じて、フォーカスリングを使って映像が鮮明になるようピントを調整してください。



☞ • プロジェクターが十分に冷却されていない場合、約 **90** 秒間冷却ファンが作動します。

- ランプの寿命を長く保つため、プロジェクターの電源を入れてから **5** 分以上経ってから電源を切ってください。
- 電源を入れた後に、画面がちらつくことがあります。これは製品の故障ではありません。

3. ご購入後に初めてプロジェクターの電源を入れたときは、画面の指示に従って言語を選択してください。
4. パスワードの入力を求められた場合、矢印キーを使って 6 桁のパスワードを入力してください。詳しくは「パスワード機能の使いかた」(42 ページ) を参照してください。



5. 接続されているすべての機器の電源を入れます。
6. 入力信号を検索し、スクリーンの左上にスキャンされた入力信号が表示されます。入力信号が検出されない場合、入力信号が検出されるまで **[** 信号なし **]** のメッセージが表示されます。
プロジェクター、またはリモコンの【**INPUT**】ボタンを押しても、入力信号を選択することができます。詳しくは「入力信号を切り替える」(44 ページ) を参照してください。

☞ 入力信号の周波数 / 解像度がプロジェクターの動作範囲を超えた場合、**[** 対応範囲外 **]** というメッセージが表示されます。プロジェクターの表示可能な入力信号に変えるか、入力信号を設定し直してください。詳しくは「対応信号」**(95** ページ **)** を参照してください。

メニューの使いかた

本機には、各種調整や設定をおこなうためのオンスクリーンディスプレイメニュー（以下 OSD メニュー）があります。

以下に OSD メニューの概要を示します。



OSD メニューを使用する前に、以下の手順で使用する言語を選択してください。

1. プロジェクターかリモコンの【**MENU**】ボタンを押し、OSD メニューを表示します。



2. 【◀/▶(左 / 右)】ボタンを使い [システム設定 : 基本] メニューを選択します。



3. 【▼(下)】ボタンを押して [言語 (**Language**)] を選択し、【**OK/IMAGE**】ボタンを押します。



4. 【◀/▲/▼/▶(左 / 上 / 下 / 右)】ボタンを押して使用する言語を選択し、【**OK/IMAGE**】ボタンを押します。
5. プロジェクターかリモコンの【**MENU**】ボタンを押し、設定を保存します。

パスワード機能の使いかた

本機にはパスワード機能があります。

パスワードは OSD メニューで設定します。OSD メニューの操作については、「メニューの使いかた」(41 ページ) を参照してください。

このページの下の欄にパスワードを書きメモし、安全な場所に保管してください。

パスワードを設定する

☞一度パスワードを設定すると、プロジェクターの電源を入れるたびにパスワードを入力する必要があります。正しいパスワードを入力しなければ、プロジェクターを使用することができません。

1. OSD メニューを表示し、**[** システム設定 : 詳細 **]>[** セキュリティ設定 **]** メニューを選択します。**【OK/IMAGE】**ボタンを押して **[** セキュリティ設定 **]** ページを表示します。
2. **[** 電源ロック **]** を選択し、【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して **[** オン **]** を選択します。
3. 右図のように、4 つの矢印キー（▲、▶、▼、◀(上、右、下、左)）はそれぞれ 4 つの数字（1, 2, 3, 4）を示しています。矢印キーを使って、設定したいパスワードの数字 6 桁を入力します。
4. パスワードを再度入力し、パスワードを確認します。
   パスワードを設定すると、**[** セキュリティ設定 **]** ページに戻ります。



☞入力した数字はアスタリスク（*）で表示されます。万が一パスワードを忘れてしまった場合に備え、以下の欄に設定したパスワードをメモしてください。

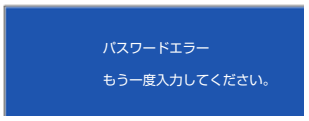
パスワード：＿＿＿＿＿＿

本書は安全な場所に保管しておいてください。

5. **【MENU】**ボタンを押して OSD メニューを終了します。

パスワードを忘れた場合

パスワード機能を有効にすると、プロジェクターの起動時に毎回 6 桁のパスワードを入力します。間違ったパスワードを入力すると、右図のようなパスワードエラーメッセージが 3 秒間表示され、**[** パスワードの入力 **]** というメッセージが表示されるので、正しいパスワードを入力してください。もしパスワードを忘れてしまった場合はパスワード機能をリセットすることができます。詳しくは「パスワード機能をリセットする」(43 ページ) を参照してください。



パスワードの入力を続けて 5 回間違えると、プロジェクターの電源が自動的に切れます。

パスワード機能をリセットする

1. プロジェクターの電源を切ります。詳しくは「プロジェクターの電源を切る」(57 ページ) を参照してください。
2. 電源コードをコンセントから抜きます。
3. **POWER**（電源インジケーター）が消灯するのを待ってからプロジェクターの【**MENU**】ボタンと【▶(右)】ボタンを押したまま、電源コードを差し込みます。
4. [電源ロック] が [オフ] になり、パスワードもリセットされます。プロジェクターは、パスワードを入力しなくても電源を入れることができます。電源ロック機能は、再度有効にすることができます。「パスワードを設定する」(42 ページ) を参照してください。

パスワードを変更する

1. OSD メニューを表示し、**[** システム設定 **:** 詳細 **]>[** セキュリティ設定 **]>[** パスワードの変更 **]** メニューを選択します。
2. 【**OK/IMAGE**】ボタンを押します。**[** 現在のパスワード **]** というメッセージが表示されます。
3. 現在使用しているパスワードを入力します。
   - 入力したパスワードが正しければ、**[** 新しいパスワード **]** というメッセージが表示されます。
   - 入力したパスワードが間違っていると、パスワードエラーメッセージが 3 秒間表示され、**[** 現在のパスワード **]** というメッセージが表示されます。再度正しいパスワードを入力してください。【**MENU**】ボタンを押し、パスワードの変更設定を中止することもできます。
4. 新しいパスワードを入力します。

☞入力した数字はアスタリスク（*）で表示されます。万が一パスワードを忘れてしまった場合に備え、以下の欄に設定したパスワードをメモしてください。

パスワード：＿＿＿＿＿＿

本書は安全な場所に保管しておいてください。

5. 新しいパスワードを再度入力します。
6. 新しいパスワードが記録されます。次回プロジェクターを起動したときには、必ず新しいパスワードを入力してください。
7. 【**MENU**】ボタンを押して OSD メニューを終了します。

パスワード機能を無効にする

パスワード機能を無効にするには、OSD メニューを開き、
[システム設定 **:** 詳細 **]>[** セキュリティ設定 **]>[** 電源ロック **]** メニューを選択します。【**◀/▶**(左 / 右)】ボタンを押して **[** オフ **]** を選択します。
[パスワードの入力 **]** というメッセージが表示されるので、現在のパスワードを入力します。

- 入力したパスワードが正しい場合、OSD メニューの [電源ロック] 欄が [オフ] と表示された状態の [セキュリティ設定] ページに戻ります。これで、次回プロジェクターを起動するときには、パスワードを入力する必要はありません。
- 入力したパスワードが間違っていると、パスワードエラーメッセージが 3 秒間表示され、[現在のパスワード] というメッセージが表示されます。再度正しいパスワードを入力してください。【**MENU**】ボタンを押し、パスワードの変更設定を中止することもできます。

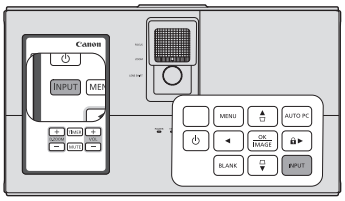
☞パスワード機能を無効にし、再度パスワード機能を有効にするときは、古いパスワードを入力するよう要求されます。古いパスワードは忘れないようにメモし、保管しておいてください。

入力信号を切り替える

プロジェクターは同時に複数のビデオ機器（AV 機器）を接続することができます。ただし一度に投写できる機器は 1 台です。

入力信号を自動的に検出するには、[入力] メニューで [オートサーチ] 機能を [オン] にします。

入力信号は手動で切り替えることもできます。



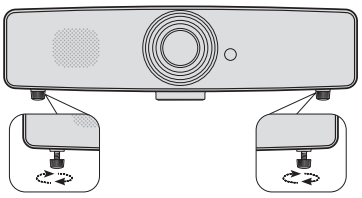
1. プロジェクター、またはリモコンの【**INPUT**】ボタンを押して入力信号選択バーを表示します。
2. 投写する入力信号が選択されるまで【▲/▼（上 / 下）】ボタンを押し、【**OK/IMAGE**】ボタンを押して選択します。
（入力）信号が検出されると、選択した入力信号の情報が画面に数秒間表示されます。プロジェクターに複数の機器が接続されている場合、手順 1-2 を繰り返すと別の入力信号を検出することができます。



☞
- 入力信号を変えるたびに投写映像の明るさも変わります。一般的に動画を使った「ビデオ」に比べ、静止映像を使った「**PC**」表示の方が明るく投写されます。
- 入力信号の種類によって、イメージモードで有効なオプションが変わります。詳しくは「イメージモードの選択」**(50** ページ **)** を参照してください。
- 本機の画面解像度は、縦横比 **16:10** です。最適の画質を得るには、この解像度で出力できる入力信号を選択、使用する必要があります。これ以外の解像度を使用すると、映像がひずんだり、鮮明に投写されなくなります。「縦横比を選ぶ」**(48** ページ **)** を参照してください。

映像を調整する

投写角度の調整



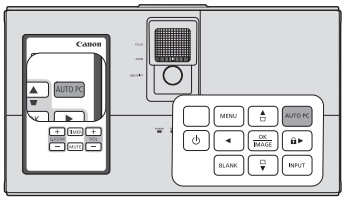
プロジェクターには、2 本の調整脚が装備されています。調整脚を使って、映像の高さと投写角度を変更します。映像の高さと投写角度を調整するには、調整脚を回して水平方向の傾きを微調整します。調整脚を元に戻すには、調整脚を反対方向に回します。

プロジェクターが水平に設置されていない場合、またはスクリーンに平行に設置されていない場合は、投写映像が台形にひずみます。この場合「台形補正」(46 ページ) を参照して、台形のひずみを調整してください。

⚠• ランプが点灯しているときは絶対にレンズをのぞかないでください。ランプから強い光が出ているので、目を傷める危険があります。

• 調整脚は熱風が出てくる排気口の近くにあります。調整脚を回すときには、注意してください。

映像を自動で調整する



必要に応じて画質を最適化する必要があります。プロジェクターかリモコンの【**AUTO PC**】ボタンを押します。自動調整機能により周波数およびクロック値が再調整され、3 秒以内に最適な状態で投写されます。

現在の投写状態がスクリーンの左上隅に 3 秒間表示されます。

☞• **AUTO PC** が機能している間、映像が一時的に消えます。

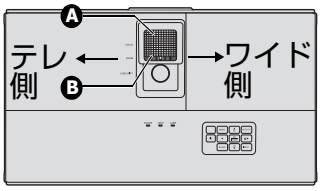
• この機能はコンピュータ信号 **(** アナログ **RGB)** が選択されている場合にのみ使用できます。

投写サイズとピントを調整する

お好みの投写サイズに調整する場合、適切な投写距離が得られるようプロジェクターを移動する必要があります。以下の手順に従って、設置と調整をおこなってください。

投写距離の調整後はフォーカスがずれるため、必ずフォーカスの再調整が必要となります。ボケが大きい状態からピントを合わせるとそれに伴い投写サイズが変わります。必要に応じて投写距離とフォーカス調整を繰り返してください。

右の図の (A) フォーカスリング、(B) ズームリングを使って調整します。

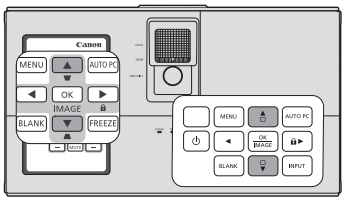


1. ズームリングを使ってズームを調整します。
2. 短距離 / 大型スクリーンの場合、ズームリングをワイド端側へ完全に回してください。
   長距離 / 小型スクリーンの場合、ズームリングをテレ端側へ完全に回してください。
3. フォーカスリングを使ってフォーカスを調整します。
4. プロジェクターを前後に動かして、スクリーンサイズを調整してください。
5. 必要に応じて、フォーカスを調整し直してください。

台形補正

台形補正とは、投写映像の上部、下部、左側、右側のいずれかが長くなってしまう台形ひずみを補正することです。これはプロジェクターがスクリーンに対してまっすぐに設置されていないときにおこります。

この場合、プロジェクターの高さを調整する以外に、次のいずれかの手順で補正する必要があります。



- プロジェクターかリモコンの【▽/△】ボタンを押して、台形補正ページを表示します。映像の上部が長くなっている時は【▽】ボタンを、映像の下部が長くなっている時は【△】ボタンを押してください。映像の左側が長くなっている時は【◀（左）】ボタンを、映像の右側が長くなっている時は【▶（右）】を押してください。
- OSD メニューを使用する場合

1. 【**MENU**】ボタンを押して、**[** 表示 **]** メニューが表示されるまで【◀ **/**▶（左 **/** 右）】を押します。
2. 【▼（下）】ボタンを押して **[** 台形補正 **]** を選択し、【**OK/IMAGE**】ボタンを押します。**[** 台形補正 **]** ページが表示されます。





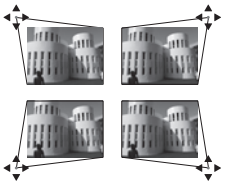
3. 映像の上部が長くなっている時は【▽】ボタンを、映像の下部が長くなっている時は【△】ボタンを押してください。映像の左側が長くなっている時は【◀（左）】ボタンを、映像の右側が長くなっている時は【▶（右）】を押してください。

- 垂直台形ひずみは補正できますが、ひずみの補正範囲は限定されます。
- 台形補正が実行されると、補正値が表示されます。この値は投写角度ではありません。
- 台形補正の調整値の範囲は設置条件によって異なります。
- プロジェクターとスクリーンの設置条件によっては、正しく投写できないことがあります。

- 台形補正を行うと、解像度が低下します。また、複雑なパターンで縞が発生したり、直線が曲がって投写されることがありますが、故障ではありません。
- 投写されているビデオ信号の種類や台形補正の設定値により、台形補正中のスクリーンにノイズが表示されることがあります。その場合は、台形補正をノイズが現れないように微調整してください。
- 台形補正を行うと、入力信号の種類によっては映像が正しく表示されない場合があります。

コーナー補正

水平方向または垂直方向の値を設定して、映像の4 隅のコーナー位置を手動で調整できます。

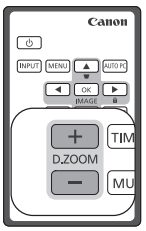


1. 【**MENU**】ボタンを押して、［表示］メニューが表示されるまで【◄ **/**►（左 **/** 右)】ボタンを押します。
2. 【▼（下)】ボタンを押して【角調整】を選択し、【**OK/IMAGE**】ボタンを押します。【角調整】ページが表示されます。
3. 【◄ **/**▲ **/**▼ **/**►（左 / 上 / 下 / 右)】ボタンを押して、1 つのコーナーを選択し、【**OK/IMAGE**】ボタンを押します。
4. 【▲ **/**▼（上 / 下)】ボタンを押して、垂直方向の値を調整します。
5. 【◄ **/**►（左 **/** 右)】ボタンを押して、水平方向の値を調整します。
6. 調整後、【**MENU**】ボタンを押して【角調整】ページに戻ります。
7. 【◄ **/**▲ **/**▼ **/**►（左 / 上 / 下 / 右)】ボタンを押して、残りのコーナーを選択し、手順 4 ～ 7 を繰り返してさらに調整を行います。

映像を拡大して見るには

投写映像の細部を見る場合、映像を拡大してください。矢印キーを拡大表示する範囲を移動することができます。

- リモコンを使用する場合



1. **【D.ZOOM (+/-)】**ボタンを押してズームバーを表示します。**
2. **【D.ZOOM (+)】**ボタンを押すと映像の中央が拡大表示されます。適切な大きさになるまで押してください。**
3. 移動するには、リモコンの矢印キー（▲、▼、◀、▶）を使用してください。
4. 映像を元のサイズに戻すには、**【AUTO PC】**ボタンを押してください。**【D.ZOOM (-)】**ボタンを使用することもできます。元のサイズに戻るまで押してください。

- OSD メニューを使用する場合

1. **【MENU】**ボタンを押して、**[** 表示 **]** メニューが表示されるまで**【◀/▶】**ボタンを押します。
2. **【▼（下）】**ボタンを押して **[D.ZOOM]** を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押すと、ズームバーが表示されます。
3. 上記の「リモコンを使用する場合」の手順 2 ～ 4 をおこないます。プロジェクターのコントロールパネルでおこなう場合は、次の手順に従ってください。
4. プロジェクターの**【▲（上）】**ボタンを押して適切なサイズに拡大します。
5. 移動するには、**【OK/IMAGE】**ボタンを押して移動モード（PANNING）に切り替え、プロジェクターかリモコンの矢印キー（▲、▼、◀、▶）を押します。
6. 投写サイズを元のサイズに戻すには、**【OK/IMAGE】**ボタンを押してズーム（ZOOM）イン / アウトモードに戻り、**【AUTO PC】**ボタンを押します。または、元のサイズに戻るまで**【▼（下）】**ボタンを押す方法もあります。

****PC** とプロジェクターが **USB** 接続されている場合は、リモコンから **PC** を操作する機能 **(PageUP/PageDown)** になります。

☞ 映像の移動は、拡大して投写しているときにおこないます。細部を拡大して投写する部分を探しながら、さらに拡大することもできます。

縦横比を選ぶ

「縦横比」とは、映像の幅と高さの比率のことです。多くのアナログテレビやコンピュータ画面の縦横比は 4:3、ハイビジョン TV や DVD は 16:9 です。

投写映像の縦横比を変更する

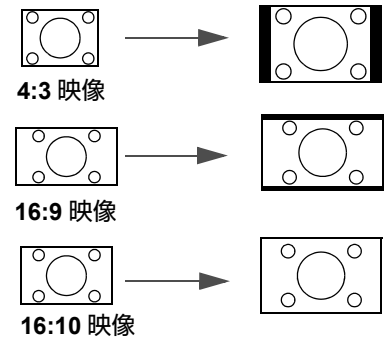
1. **【MENU】**ボタンを押して、**[** 表示 **]** メニューが表示されるまで**【◀/▶（左 / 右）】**ボタンを押します。
2. **【▼（下）】**ボタンを押して **[** アスペクト **]** を選択します。

3. 【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して、縦横比を選択します。ビデオ信号とディスプレイの条件にあわせ、適切な縦横比を選択してください。

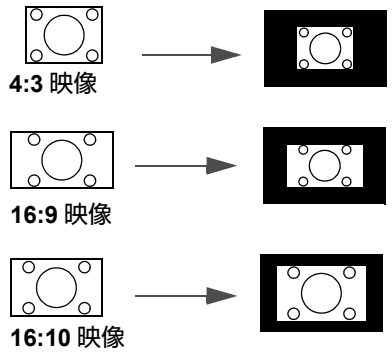
縦横比について

☞ 下の図では、黒い部分が無効な領域、白い部分が有効な領域です。使われていない黒い部分には、**OSD** メニューを表示することができます。

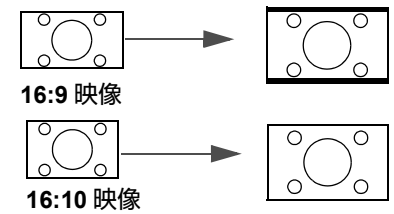
1. オート：入力映像の縦横比を維持しながら、プロジェクターの解像度に合わせて、映像を拡大 / 縮小します。



2. リアル：入力映像の解像度がプロジェクターの解像度以下のときに入力映像と同じ解像度で投写されます。入力信号の解像度が低い場合、投写映像のサイズはフルスクリーンサイズに調整したときよりも小さくなります。投写サイズを縮小または拡大することができます。この調整を行った場合、フォーカスの再調整が必要なときがあります。入力信号が高解像度の場合、投写される映像は、プロジェクターの解像度に合わせて、縦横比を維持したまま投写サイズが変更されます。



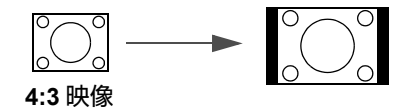
3. **16:10**：映像がスクリーンの中央に 16:10 で表示されるように拡大 / 縮小します。映像の縦横比が 16:10 のときに適しています。



4. **16:9**：映像がスクリーンの中央に、16:9 で表示されるように拡大 / 縮小します。ハイビジョンテレビや縦横比 16:9 の DVD 映画など、映像の縦横比が 16:9 のときに適しています。

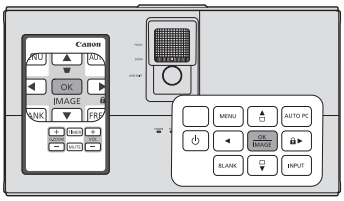


5. **4:3**：映像がスクリーンの中央に 4:3 で表示されるように拡大 / 縮小します。コンピュータの 4:3 の映像に適しています。



プレゼンテーション中に使える便利な機能

イメージモードの選択



投写環境や映像入力信号の種類に合わせて、イメージモードが選択できるようあらかじめ複数のイメージモードが設定されています。

イメージモードを選択するには、次のいずれかの手順に従ってください。

- リモコンかプロジェクターの【**OK/IMAGE**】ボタンを、目的のモードが選択されるまで押します。
- **[** ピクチャー **]>[** イメージモード **]** メニューに進み、【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して目的のモードを選択します。

入力信号の種類とイメージモード

以下の通り、おすすめのイメージモードは映像の種類によって異なります。

1. [プレゼンテーション] モード：文字の多い映像の投写に適しています。
2. [スタンダード] モード：コンピュータスクリーンやカラフルな映像（動画）などの投写に適しています。
3. [**sRGB**] モード：sRGB に対応しているデジタルカメラの写真の投写に適しています。sRGB 規格との互換性があります。
4. [ムービー] モード：カラフルな映像（動画）の投写に適しています。
5. [**DICOM**] モード：医療用映像（動画）の投写に適しています。
   本プロジェクターは、医用画像表示用モニタではないため、読影や診断には使用できません。
6. [ユーザー設定 **1/** ユーザー設定 **2**] モード：お好みで調整した画質設定を保存することができます。保存した設定はイメージモードとして選択することができます。詳しくは下記の「[ユーザー設定 1/ ユーザー設定 2] モードの設定」を参照してください。

☞ 入力されている映像信号が **PC** 系の信号かビデオ系の信号かを判別し、それに対して前回選択していたイメージモードを自動で呼び出します。

[ユーザー設定 **1/** ユーザー設定 **2**] モードの設定

あらかじめ設定されているイメージモード以外に、2 種類のユーザー設定モードを調整することができます。ユーザー設定 **1**（[プレゼンテーション] モードベース）は PC 映像に適しています。ユーザー設定 **2**（[スタンダード] モードベース）はビデオ機器の映像に適しています。

1. 【**MENU**】ボタンを押して、オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューを開きます。
2. **[** ピクチャー **]>[** イメージモード **]** メニューに進みます。
3. 【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して、**[** ユーザー設定 **1]** または **[** ユーザー設定 **2]** を選択します。
4. 【▼(下)】ボタンを押して変更したいサブメニュー項目を選択し、【◀/▶(左 / 右)】ボタンで値を変更します。詳しくは下記の「ユーザーモードの画質の微調整」を参照してください。
5. 設定は自動的に保存されます。

ユーザーモードの画質の微調整

[ユーザー設定 **1]** モードまたは **[** ユーザー設定 **2]** モードを選択すると、検出された入力信号の種類に応じて、ユーザーが機能を設定できるものもあります。次の機能は、必要に応じてユーザーが調整することできます。

明るさの調整

[ピクチャー **]** メニューで **[** 明るさ **]** を選択し、プロジェクター、またはリモコンの【◀/▶(左 / 右)】ボタンで調整します。



高く設定するほど映像は明るくなり、低く設定するほど映像は暗くなります。映像の黒い領域が黒く表示され、暗い領域の細部が見えるように明るさを調整してください。

コントラストの調整

[ピクチャー **]** メニューで **[** コントラスト **]** を選択し、プロジェクター、またはリモコンの【◀/▶(左 / 右)】ボタンで調整します。



高いほどコントラストが大きくなります。白のピークレベルを設定することができます。設定をおこなう前に選択した入力と投写する環境に合わせて、**[** 明るさ **]** の設定をおこなってください。

色の濃さの調整

[ピクチャー **]** メニューで **[** 色の濃さ **]** を選択し、プロジェクター、またはリモコンの【◀/▶(左 / 右)】ボタンで調整します。

設定値を低くするほど、彩度が低くなります。設定値が高すぎると、映像の色が不自然に強調されることがあります。

色合いの調整

[ピクチャー **]** メニューで **[** 色合い **]** を選択し、プロジェクター、またはリモコンの【◀/▶(左 / 右)】ボタンで調整します。

高くするほど赤みがかった映像になり、低くするほど緑がかった映像になります。

シャープネスの調整

[ピクチャー **]** メニューで **[** シャープネス **]** を選択し、プロジェクター、またはリモコンの【◀/▶(左 / 右)】ボタンで調整します。

高くするほど映像がシャープになり、低くするほど映像が柔らかくなります。

BrilliantColor™ 調整

[ピクチャー **]** メニューで **[BrilliantColor™]** を選択し、プロジェクター、またはリモコンの【◀/▶(左 / 右)】ボタンで調整します。

BrilliantColor™ は新しい色処理アルゴリズムとシステムレベルの向上を利用し、よりリアルで鮮やかな色を提供すると共に、輝度を上げることができます。中間調映像であれば、50% 以上も輝度を上げることができるので、リアルで自然な色を再現することが可能です。

高画質映像を表示したい場合は、**[** オン **]** を選択してください。それ以外は、**[** オフ **]** を選択してください。

プロジェクターのデフォルト値は **[** オン **]** で、推奨値です。**[** オフ **]** に設定されている場合は、**[** 色温度 **]** と **[6** 軸色調整 **]** 機能は使用できません。

色温度の選択

[ピクチャー **]** メニューで **[** 色温度 **]** を選択し、プロジェクター、またはリモコンの【◀/▶(左 / 右)】ボタンで調整します。

色温度 * 設定のオプションは、選択した入力信号の種類によって使用できない場合があります。

1. **[** 高 **]**: 映像は青みがかった色で表示されます。(寒色)
2. **[** 中 **]**: 映像は通常の色で表示されます。
3. **[** 低 **]**: 映像は赤みがかった色で表示されます。(暖色)

***** 色温度について：

「白」とされる色合いは、用途に応じて多数存在します。白色を表すためによく使用される方法に「色温度」があります。色温度の低い白色は赤みがかった白に見えます。色温度の高い白色は青みがかった白に見えます。

6 軸色調整によるカラーマネージメント

教室、会議室、ラウンジなど照明が常についている場所や、外窓から日光が差し込む部屋など、ほとんどの設置場所ではカラーマネージメントは必要ありません。

重役会議室、講義室、ホームシアターなど、照明のレベルが制御された場所に設置した場合は、カラーマネージメントが必要となります。カラーマネージメントを行うと、色の微調整が可能となり、より正確な色が再現できます。

適切なカラーマネージメントは、制御された再現可能な視聴環境でのみ行うことができます。調整した色を測定するには、色彩計と適切なソース画像が必要です。

これらのツールはプロジェクターには付属していないので、販売店にお問い合わせください。

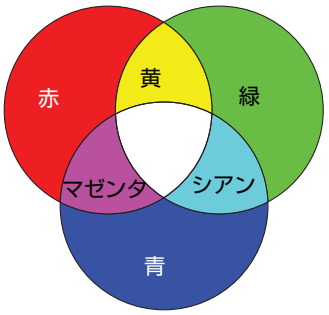
カラーマネージメントで調整できるのは、6 色 (赤、緑、青、シアン、マゼンタ、黄) です。それぞれの色を選択し、その色の範囲と彩度を個別に調整することができます。

さまざまなカラーテストパターンが含まれたテストディスクを使うことで、モニタやテレビ、プロジェクターなどで色の表示をテストすることができます。ディスクの画像は、スクリーンに投写することができ、**[6** 軸色調整 **]** メニューで調整することができます。

設定を調整するには：

1. **[** ピクチャー **]** メニューで、**[6** 軸色調整 **]** を選択します。
2. **【OK/IMAGE】** ボタンを押すと、**[6** 軸色調整 **]** ページが表示されます。
3. **[** 色の選択 **]** を選択し、**【◀/▶(左 / 右)】** ボタンを押して赤、緑、青、シアン、マゼンタ、黄の中から色を選択します。

4. 【▼(下)】ボタンを押して [色相] を選択し、【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して範囲を設定します。範囲を広げると、隣り合う 2 つの色が含まれる割合も増えます。
それぞれの色がどのように関連し合っているかについては、右図を参照してください。例えば赤を選択し、色相の範囲を 0 にした場合、投写映像の中では純粋な赤だけが選択されます。色相の範囲を広げると、黄に近い赤やマゼンタに近い赤も含まれるようになります。



5. 【▼(下)】ボタンを押して [彩度] を選択し、【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して適切な値に設定してください。調整した値はすぐに反映されます。
例えば赤を選択し、彩度の範囲を 0 に設定した場合、純粋な赤の彩度だけが影響を受けます。
6. 【▼(下)】ボタンを押して [明るさ] を選択し、【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して適切な値に設定してください。選択した原色のコントラストレベルが影響を受けます。調整した値はすぐに反映されます。
7. 他の色調整も行う場合は、手順 3 ～ 6 を繰り返してください。
8. 調整がすべて完了したことを確認してください。
9. 【**MENU**】ボタンを押して、設定を保存して終了します。

☞「彩度」とはビデオ映像の色の量のことです。値を低く設定するほど、彩度が低くなります。**0** に設定すると、映像から完全に色が抜けてしまいます。彩度が高すぎると、色が濃すぎて非現実的な色になってしまいます。

スクリーンカラーを使う

白以外の色の壁に映像を投写する場合、実際の色と投写映像の色が変わることがあります。この場合、[スクリーンカラー] 機能を使って投写映像の色を補正することができます。

この機能を使用するには、[表示]>[スクリーンカラー] メニューを開き、【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して投写面の色に最も近い色を選択します。
[薄い黄色]、[ピンク]、[薄い緑色]、[青]、[黒板] の色があらかじめ用意されています。

プレゼンテーションタイマーを設定する

プレゼンテーションタイマーはプレゼンテーションの時間をスクリーン上に表示し、発表者が時間を管理できるようにします。この機能を使用するには、次の手順でおこなってください。

1. [システム設定 : 基本]>[プレゼンテーションタイマー] メニューを表示し、【**OK/IMAGE**】ボタンを押して、[プレゼンテーションタイマー] ページを表示します。

2. 【▼(下)】ボタンを押して **[** プリセット時間 **]** を選択し、【◀/▶(左 / 右)】ボタンでタイマー間隔を決定します。時間の長さは、1 分から 5 分までは 1 分間隔で、5 分から 240 分までは 5 分間隔で設定することができます。

☞ すでにタイマーがオンになっている場合、**[** プリセット時間 **]** をリセットするとタイマーがカウントを新しく開始します。

3. 【▼(下)】ボタンを押して **[** タイマー表示 **]** を選択し、【◀/▶(左 / 右)】ボタンでタイマーをスクリーン上に表示するかを決定します。

選択	説明
常に表示する	プレゼンテーションの間、常にタイマーをスクリーン上に表示します。
1 分 /2 分 /3 分	タイマーを最後の 1/2/3 分間だけ表示します。
常に表示しない	プレゼンテーション中にタイマーを表示しません。

4. 【▼(下)】ボタンを押して **[** 位置 **]** を選択し、【◀/▶(左 / 右)】ボタンでタイマーの位置を設定します。タイマーの表示位置は、画面の左上、左下、右上、右下から選択できます。
5. 【▼(下)】ボタンを押して **[** カウント方法 **]** を選択し、【◀/▶(左 / 右)】ボタンでタイマーのカウント方法を選択します。

選択	説明
カウントアップ	1 からあらかじめ設定した時間まで、カウントアップします。
カウントダウン	あらかじめ設定した時間から 1 まで、カウントダウンします。

6. 【▼(下)】ボタンを押して **[** サウンドリマインダー **]** を選択し、【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して、音による通知を有効にするかを決定します。**[** オン **]** を選択すると、カウントダウン / アップが残り 30 秒になるとビープ音が 2 回鳴り、終了時間になるとビープ音が 3 回鳴ります。
7. プレゼンテーションタイマーを有効にするには、【▼(下)】ボタンを押した後、【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して **[** オン **]** を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。
8. 確認のメッセージが表示されます。**[** はい **]** を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押して確定します。スクリーン上に **[** タイマーはオンです！ **]** というメッセージが表示されます。タイマーがオンになった瞬間からカウントを開始します。

☞ 入力信号を切り換えるか **【AUTO PC】** ボタンを押した場合、タイマーは停止します。

タイマー設定を取り消す場合は、以下の手順でおこないます。

1. **[** プレゼンテーションタイマー **]** ページに戻ります。
2. 【▼(下)】ボタンを押した後、【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して **[** オフ **]** を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。確認のメッセージが表示されます。
3. **[** はい **]** を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押して確定します。スクリーン上に **[** タイマーはオフです！ **]** というメッセージが表示されます。

【TIMER】ボタンの使いかた

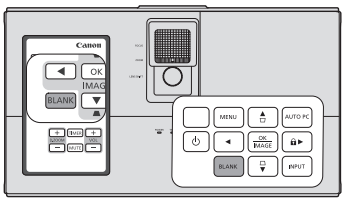
【TIMER】ボタンは多機能ボタンで以下のようなことができます。



- プレゼンテーションタイマーがオフになっているときに押すと、確認のメッセージが表示されます。表示されたメッセージに指示に従って、タイマーを起動するかを決定してください。
- プレゼンテーションタイマーがオンになっているときに押すと確認のメッセージが表示されます。表示されたメッセージに指示に従って、タイマーを新たに開始するか、続行するか、オフにするかを決定してください。

映像を消す

プロジェクター、またはリモコンの**【BLANK】**ボタンを押すと、スクリーンの映像を消すことができ、聴衆の関心を発表者に向けることができます。プロジェクター、またはリモコンのボタンをどれか押すと、元の映像が表示されます。映像が非表示になると、スクリーンの右下に **[BLANK]** と表示されます。



[システム設定 : 基本 **]>[** ブランクタイマー **]** メニューで、一定時間映像を消した状態で何もしなかった場合、自動的に映像を表示する設定ができます。

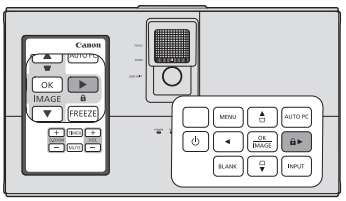
☞一度**【BLANK】**ボタンが押されると、プロジェクターは自動的に **[** エコ **]** モードになります。

⚠投写中は投写レンズをふさがないでください。ふさいでいる物が過熱し、変形することがあります。また火災の原因となることもあります。

コントロールキーをロックする

プロジェクターのコントロールキーをロックすると、プロジェクターの設定が誤って変更されることを防ぐことができます。**[** パネルキーロック **]** がオンになっているときは、プロジェクターのコントロールキーは【⏻(電源)】ボタンを除き、いずれも動作しません。

1. プロジェクター、またはリモコンの【▶(右) /🔒】ボタンを押すか、**[** システム設定 : 基本 **]>[** パネルキーロック **]** メニューを表示し、プロジェクター、またはリモコンの【◀/▶左 / 右)】ボタンで **[** オン **]** を選択します。
2. 確認のメッセージが表示されます。**[** はい **]** を選択して確定します。



パネルキーロックを解除するには、プロジェクターのボタンをどれか 1 つ押し、パネルキーロック警告を表示します。警告が表示された状態で、プロジェクター、またはリモコンの【▶(右) /🔒】ボタンを 3 秒間押したままにします。

また、[システム設定 : 基本]>[パネルキーロック] メニューを表示し、【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して [オフ] を選択することもできます。

☞• パネルキーロックが有効になっていても、リモコンキーは使用できます。
• パネルキーロックを無効にしないでプロジェクターの電源を切った場合、次回電源を入れたときはロックされた状態となります。

映像を静止する

リモコンの【**FREEZE**】ボタンを押すと映像が静止します。スクリーンの左上に **[FREEZE]** と表示されます。この機能を解除するには、プロジェクター、またはリモコンのボタンをどれか押してください。



スクリーン上で映像が静止していても、ビデオやその他の機器では映像が流れ続けます。オーディオ機器がプロジェクターに接続されている場合、映像が静止していても音声は流れます。

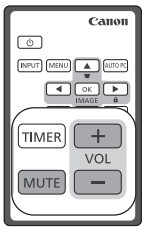
☞映像を長時間静止させないでください。スクリーンに残像が残る場合があります。

音量を調整する

プロジェクターのスピーカーの音量調整をおこなうことができます。プロジェクターのオーディオ入力が正しく接続されていることを確認してください。オーディオ入力の接続方法については、「接続する」(29 ページ) を参照してください。

音を消す

一時的に音を消すには、リモコンの【**MUTE**】ボタンを押すか、次の手順でおこないます。



1. 【**MENU**】ボタンを押し、[システム設定 : 詳細] メニューが表示されるまで【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押します。
2. 【▼(下)】ボタンを押し、[オーディオ設定] を選択し、【**OK/IMAGE**】ボタンを押すと、[オーディオ設定] ページが表示されます。
3. [ミュート] を選択し、【◀/▶(左 / 右)】ボタンを押して [オン] を選択します。

音量の調整

音量を調整するには、リモコンの【**VOL+/-**】ボタンを押すか、次の手順でおこないます。

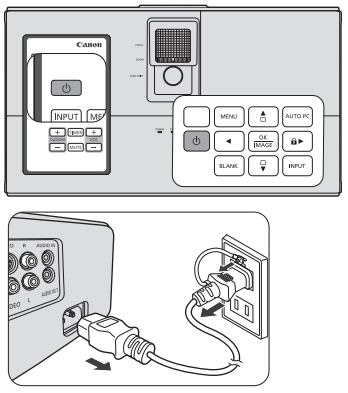
1. 上記のステップ 1-2 の手順で、[オーディオ設定] ページを表示します。
2. 【▼(下)】ボタンを押して [音量] を選択し、次いで【◀/▶(左 / 右)】ボタンで任意の音量を設定します。

プロジェクターのメニュー表示をカスタマイズする

OSD メニューの表示方法を変えることができます。以下の設定は投写設定、操作、性能には影響しません

- **[** システム設定 : 詳細 **]>[** メニュー設定 **]** メニューの **[** メニュー表示時間 **]** では、最後にキーを押してから OSD メニューの表示が消えるまでの時間を設定できます。設定は 5 秒から 30 秒までの範囲で 5 秒ごとに設定することができます。【◀/▶(左 / 右)】ボタンでお好みの時間を選択してください。
- **[** システム設定 : 詳細 **]>[** メニュー設定 **]** メニューの **[** メニュー位置 **]** では、OSD メニューの表示位置を 5 つの位置から設定することができます。【◀/▶(左 / 右)】ボタンでお好みの位置を選択してください。
- **[** システム設定 : 基本 **]** メニュー **>[** 言語 **(Language)]** では、OSD メニューの言語を設定します。詳しくは「メニューの使いかた」(41 ページ) を参照してください。
- **[** システム設定 : 基本 **]** メニュー **>[** スプラッシュスクリーン **]** では、起動時に表示するロゴの画面を設定します。【◀/▶(左 / 右)】ボタンで、表示する画面を選択してください。

プロジェクターの電源を切る



1. 【⏻(電源)】ボタンを押すと、確認を促すメッセージが表示されます。数秒以内に応答しなければ、メッセージは自動的に消えます。
2. 再度【⏻(電源)】ボタンを押します。**POWER**(電源インジケーター)がオレンジ色に点滅し、投写ランプが消灯した後、プロジェクターを冷却するためにファンが約 90 秒間(LX-MW500)/ 約 120 秒間(LX-MU500) 動作します。
3. 冷却が完了すると、**POWER**(電源インジケーター)がオレンジ色に点灯し、ファンが停止します。
4. プロジェクターを長期間使用しない場合は、コンセントから電源コードを抜いてください。

☞
- ランプを保護するため、冷却処理中はプロジェクターを操作しないようにしてください。
- プロジェクターのシャットダウン処理が完了する前や冷却処理中に電源コードを抜かないでください。
- プロジェクターのシャットダウン中に、プロジェクターを再起動しようとすると、ランプ保護のためにファンが数分間作動して冷却を行います。**POWER**(電源インジケーター)がオレンジ色に点灯し、ファンが停止したら再び【⏻(電源)】ボタンを押して、プロジェクターを起動してください。

3D コンテンツを見る

本機では、DLP-Link システムを使用して 3D コンテンツを見ることができます。

本機がサポートしている 3D 映像信号フォーマットは、フレームシーケンシャル、フレームパッキング、トップアンドボトム、サイドバイサイドです。

3D コンテンツをご覧になるには、以下のものが必要です。

- 3D 対応機器：3D 映像の出力が可能なグラフィックボードとソフトウェアを装備したコンピュータなど。
- 3D コンテンツ
- DLP-Link 方式のアクティブシャッター 3D メガネ（144Hz 対応）

☞ すべての **3D** メガネの動作が保証されているわけではありません。

対応する **3D** 信号

3D コンテンツのフォーマットごとに対応するタイミングが異なります。詳しくは「対応信号」(95 ページ) を参照してください。

コンピュータから **3D** コンテンツを見るには

1. コンピュータケーブルでプロジェクターとコンピュータを接続します。

☞ プロジェクターをコンピュータに接続するときは、必ずコンピュータの出力信号を切り換え、プロジェクターだけに出力するよう設定してください。**(** デュアルモードは使用しないでください **)**。

2. プロジェクターに接続されたコンピュータから、3D 信号を出力します。
3. DLP-Link 方式に対応した 3D メガネの電源を入れ、メガネをかけます。
4. 3D 設定のための適切な 3D コンテンツのフォーマットを選びます。
5. 3D オブジェクトを見ることができない場合、OSD メニューの **[3D** 同期 **]** 設定を変更してください。

HDMI 機器から **3D** コンテンツを見るには

1. HDMI ケーブルでプロジェクターと HDMI 機器を接続します。
2. プロジェクターに接続された HDMI 機器から、3D 信号を出力します。
3. DLP-Link 方式に対応した 3D メガネの電源を入れ、メガネをかけます。
4. **[3D]** メニューのデフォルト設定は **[** オート **]** です。3D コンテンツを検出すると、自動的に適切な 3D 形式を選びます。3D フォーマットを認識することができない場合、**[3D]** の設定を変更して 3D モードを選択してください。
5. 3D オブジェクトを見ることができない場合、OSD メニューの **[3D** 同期 **]** 設定を変更してください。

☞
- **3D** 映像は、部屋が明る過ぎると見えづらいことがあります。また、蛍光灯 **(50Hz)** の下で **3D** メガネを使用すると、フリッカー現象 **(** ちらつき **)** が起きる可能性があります。蛍光灯を暗くするか、消灯してください。
- **3D** コンテンツを見ている間、イメージモードは変更できません。

⚠ **3D** コンテンツをご覧になる際のご注意

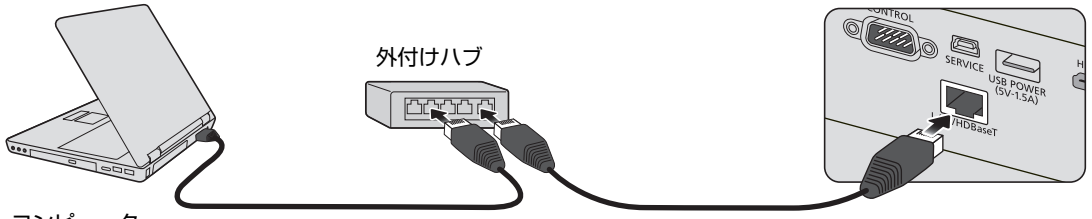
- 光過敏の既往症のある人、心臓に疾患がある人、妊娠中の女性、高齢者、重い病気にかかっている方、てんかんの発作が起きやすい方は、**3D** 映像の視聴を控えてください。病状悪化の原因となることがあります。
- 体調不良や、疲れた状態での **3D** 視聴を控えてください。他に、睡眠不足の場合、酒気を帯びている場合も、**3D** 映像の視聴を控えてください。
- もしも以下のような症状が出た場合は、すぐに **3D** 視聴を中止し、症状が軽減されるまで休憩してください。
  - **3D** 映像を見ている時に、映像が二重に見えたときや、立体感を感じにくいとき。
  - **3D** 映像を見ている時に、疲労感や不快感などの体調変化を感じたら、使用を中止してください。
  - 回転・横揺れ・縦揺れを伴う **3D** 映像コンテンツを観賞すると、自分が動いているような感覚から生じる不快感「映像酔い」が増長されることがあります。
- 長時間の使用は、目の疲れの原因になることがありますので、適度に休憩をとってください。長時間の使用や映像を斜めから見ると、眼精疲労などを引き起こす要因となります。
- お子様の **3D** 視聴には保護者様が付き添ってください。お子様は、**3D** 視聴による不快感が生じても、適切に伝えられないことがあるので、保護者様が付き添ってご使用ください。**3D** 映像の視聴年齢については、およそ **6** 歳以上を目安にしてください。
- **3D** 映像を見る際は、画面正面の適正な距離でご覧ください。**3D** 映像を見る際は、画面正面のなるべく適正な距離（画面縦寸法の約 **3** 倍以上が目安）から、（表示面の水平と両目の水平が近い状態で）ご覧ください。
- 映像ソースによって逆視が起こり得ます。立体感を感じる様、設定を確認した上で、ご使用ください。逆視とは、左目用と右目用の映像が入れ替わる事で、立体感が感じにくくなり、視覚疲労や不快感の原因となることがあります。
- **3D** 映像の見え具合、感じ方には、個人差があります。

コンピュータによる管理と操作

LAN ケーブルが正しく接続され、LAN コントロールの設定が正しく行われており、コンピュータとプロジェクターが同じローカルエリアネットワークに接続されていると、Web ブラウザまたは PJLink™ アプリケーションを使って、コンピュータからプロジェクターを操作することができます。

☞本プロジェクターは、**Crestron®** ソフトウェアと **PJLink™** に対応しています。

プロジェクターとコンピュータの接続例



☞• 外付けハブまたはルーターを使用する場合、カテゴリー **5** 以上のストレートケーブルをお使いください（一部のハブやルーターでは、クロスケーブルを使用できます。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください）。

• 身体から放電される静電気によりプロジェクターが故障する恐れがあります。**LAN** コネクターと **LAN** ケーブルの金属部分には手を触れないでください。

LAN を設定する

DHCP 環境の場合：

1. プロジェクターとコンピュータが同じローカルエリアネットワークに正しく接続されていることを確認してください。
2. **【MENU】**ボタンを押して、**[** システム設定 **:** 詳細 **]** メニューが表示されるまで**【◀/▶**（左 **/** 右）**】**ボタンを押します。
3. **【▼**（下）**】**ボタンを押して **[LAN** 設定 **]** を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。**[LAN** 設定 **]** ページが表示されます。
4. **【▼**（下）**】**ボタンを押して **[DHCP]** を選択し、**【◀/▶**（左 **/** 右）**】**ボタンを押して **[** オン **]** を選択します。
5. **【▼**（下）**】**ボタンを押して **[** 適用 **]** を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。
6. 15 秒から 20 秒待ち、**[LAN** 設定 **]** ページを再び表示します。
7. **[** プロジェクターの **IP** アドレス **]**、**[** サブネットマスク **]**、**[** デフォルトゲートウェイ **]**、**[DNS** サーバー **]** 設定が表示されます。**[** プロジェクターの **IP** アドレス **]** の列に表示される IP アドレスを書き留めます。

☞• **[** プロジェクターの **IP** アドレス **]** が表示されない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

- **LAN** ケーブルが正しく接続されていない場合、**[** プロジェクターの **IP** アドレス **]**、**[** サブネットマスク **]**、**[** デフォルトゲートウェイ **]**、**[DNS** サーバー **]** 設定は **0.0.0.0** と表示されます。**LAN** ケーブルが正しく接続されていることを確認し、上記の手順をおこなってください。

DHCP 以外の環境の場合：

1. 上記の 1 から 3 までの手順をおこないます。
2. 【▼（下）】ボタンを押して **[DHCP]** を選択し、【◀/▶（左 / 右）】ボタンを押して **[** オフ **]** を選択します。
3. **[** プロジェクターの **IP** アドレス **]**、**[** サブネットマスク **]**、**[** デフォルトゲートウェイ **]**、**[DNS** サーバー **]** の設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
4. 【▼（下）】ボタンを押して変更したいアイテムを選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。
5. 【◀/▶（左 / 右）】ボタンを押してカーソルを動かし、【▲/▼（上 / 下）】ボタンを押して値を入力します。
6. 設定を保存するには、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。設定を保存しない場合は、**【MENU】**ボタンを押します。
7. 【▼（下）】ボタンを押して **[** 適用 **]** を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。

☞ **LAN** ケーブルが正しく接続されていない場合、**[** プロジェクターの **IP** アドレス **]**、**[** サブネットマスク **]**、**[** デフォルトゲートウェイ **]**、**[DNS** サーバー **]** 設定は **0.0.0.0** と表示されます。**LAN** ケーブルが正しく接続されていることを確認した後で、上記の手順をおこなってください。

Web ブラウザからプロジェクターを遠隔操作する（e-Control™）

プロジェクターの IP アドレスが正しく設定され、プロジェクターの電源を入れるかスタンバイ状態にすると、同じローカルエリアネットワークに接続されているどのコンピュータからでも、プロジェクターを操作することができます。

☞必要な **OS** 環境：**Windows XP**、**Windows 7**、**Windows 8.1**、**Mac OS X v10.4/v10.5/v10.6/v10.7**

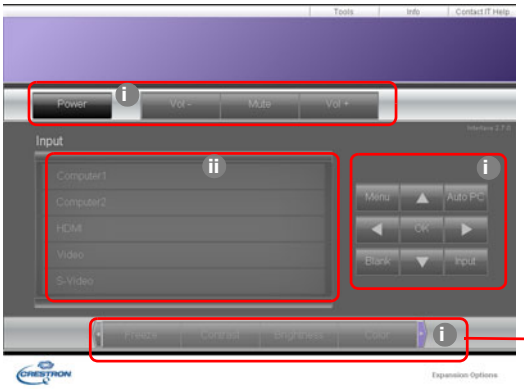
この機能を使用するには、コンピュータに Adobe Flash Player をインストールしておく必要があります。Adobe Systems Incorporated のホームページから Adobe Flash Player をダウンロードしてください。

1. ブラウザのアドレスバーにプロジェクターの IP アドレスを入力し、Enter キーを押します。（例：http://192.168.0.146）



☞必要なウェブブラウザ：**IE11**、**Chrome 44.0** 以下

2. リモートネットワーク制御ページが表示されます。表示されたページで、リモコンやプロジェクターのコントロールパネルを使って操作するのと同じように、プロジェクターを操作することができます。



【◀/▶（左 / 右）】ボタンをクリックすると、その他のボタンが表示されます

i. 表示されたボタンは、OSD メニューやリモコンのボタンと同じように動作します。詳しくは「2.[ピクチャー] メニュー」(74 ページ) と「リモコン」(20 ページ) を参照してください。

ii. 入力信号を切り替えるには、切り替えたい入力信号をクリックします。

☞プロジェクターのコントロールパネル、またはリモコンを使って **OSD** メニューの設定を変更する場合、変更内容がプロジェクターに反映されるまでに少し時間がかかります。

3. **[Tools]** ページでは、プロジェクターを管理したり、LAN コントロールの設定を行ったり、本機をリモートネットワークに安全に接続させたりすることができます。



i. Crestron Control System を使用する場合、Crestron Control System の取扱説明書をお読みになり、正しく設定してください。

ii. プロジェクター名、設置場所、責任者を入力することができます。この欄には、最大で 1 バイト文字で 22 文字を入力できます。

iii. **[LAN 設定]** を調整できます。

iv. パスワード機能があります。本機でリモートネットワーク制御ページにアクセスするためにパスワードの設定ができます。このパスワード機能を有効にするには、**[Enabled]** の前のチェックボックスにチェックを付け、**[New Password]** 欄にパスワードを入力し、**[Confirm]** 欄に新しいパスワードをもう一度入力することにより新しいパスワードを確定します。パスワード保護を無効にするには、**[Enabled]** のチェックマークを外します。

v. パスワードを設定すると、**[Tools]** ページにアクセスするためにパスワードを入力する必要があります。パスワード機能の使いかたについては、手順 iv を参照してください。

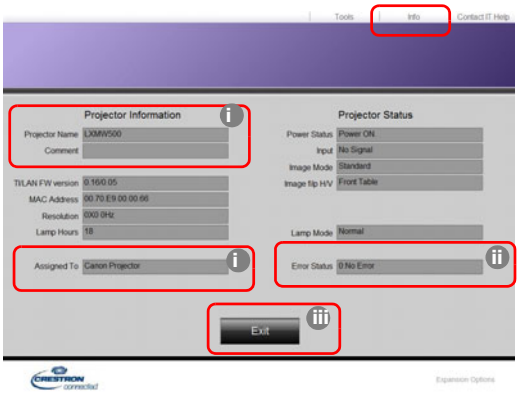
vi. **[Exit]** ボタンをクリックすると、リモートネットワーク制御ページに戻ります。

☞ • 設定後、**[Send]** ボタンをクリックすると設定した値がプロジェクターに保存されます。

- パスワードを設定すると、**[Tools]** ボタンの横に **[Log Out]** ボタンが表示されます。
- 設定したパスワードを忘れないように、パスワードは書き留めておいてください。パスワードを忘れると、ログインできなくなります。
- パスワードを忘れてしまった場合は、次の手順でリセットすることができます。
  - ウェブブラウザで **e-Control** のログを開きます。
  - プロジェクターの 【**MENU**】ボタン と 【▶(右) /🔒】ボタンを **3** 秒間長押しします。
  - 以上でパスワードがリセットされました。

- ソフトウェアは英語版です。
- **DHCP** をオンにすると、**Web** ページへの接続が切断されることがあります。その場合は、プロジェクターの新しい **IP** アドレスを確認して入力し、もう一度接続してください。

4. **[Info]** ページには、本機の情報と状態が表示されます。



i. **[Tools]** ページで入力した情報がここに表示されます。初めて e-Control™ を使用するときは、すべて空欄になっています。

ii. プロジェクターにエラーが発生した場合、次の情報が表示されます。

☞プロジェクターが正常な状態、あるいは下記以外のエラーがある場合は、**[Error Status]** の欄は **"0:No Error"** が表示されます。

Error Status（エラー状態）	説明
3：Lamp fail	作動中にランプが点灯または消灯しません。
3：Over Temp	プロジェクターの温度が高すぎる、または検出できません。
3：Fan Lock	ファンの回転速度を設定または検出できません。
3：Over Lamp Usage time	ランプ警告メッセージが表示された後も、ランプを使用し続けています。

（**3 =** エラー）

iii. **[Exit]** ボタンをクリックすると、リモートネットワーク制御ページに戻ります。

5. **[Contact IT Help]** をクリックすると、右上隅に **[HELP DESK]** 画面が表示されます。同じローカルエリアネットワークに接続された RoomView™ ソフトウェアにメッセージを配信することができます。

詳細は、http://www.crestron.com および www.crestron.com/getroomview をご覧ください。

PJLink™ アプリケーションを使ってプロジェクターを操作する

本機は、PJLink™ 標準プロトコルに対応し、共通のアプリケーションを使ってモデルや製造元が異なるプロジェクターの操作の管理や監視をすることができます。

PJLink™ について

- PJLink™ 機能を使用するには、PJLink™ アプリケーションが必要です。
- PJLink™ の仕様については、ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA) のホームページをご覧ください。(http://pjlink.jbmia.or.jp/)
- 本機は、JBMIA PJLink™ クラス 1 の規格に準拠しています。また、PJLink™ クラス 1 が定義するすべてのコマンドに対応しており、PJLink™ 標準規格バージョン 1.4 でその準拠が確認されています。

パスワード機能の使いかた

PJLink™ アプリケーションを介したプロジェクターへの不正なアクセスを防ぐため、プロジェクターにパスワードを設定することができます。パスワードを設定するには以下の手順でおこないます。

1. OSD メニューを開き、**[** システム設定 **:** 詳細 **]>[LAN** 設定 **]** メニューを選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。**[LAN** 設定 **]** ページが表示されます。
2. **[PJLink** 認証 **]** を選択し、**【◀/▶**(左 / 右)**】**ボタンを押して **[** オン **]** を選択します。デフォルトのパスワードは「admin」です。
3. **【▼**(下)**】**ボタンを押して **[PJLink** パスワードを変更 **]** を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。
4. 現在のパスワードを入力します。**【◀/▶**(左 / 右)**】**ボタンを押して欄を選択し、入力する文字を**【▲/▼**(上 / 下)**】**ボタンを押して 0 ～ 9、A ～ Z、a ～ z、または記号の中から選択します。入力が終わったら**【OK/IMAGE】**ボタンを押して確定します。
5. 新しいパスワードを入力し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押して確定します。

☞ パスワードを忘れた場合は、「**projectorcontroller**」というパスワードを使用してください。

PJLink™ がサポートするコマンド

下の表は、PJLink™ プロトコルを使ってプロジェクターを操作するためのコマンドの一覧です。

コマンド	説明	備考（パラメータ）
POWR	電源コントロール	0 = 電源オフ 1 = 電源オン
POWR?	電源の状態について問い合わせます	0 = スタンバイ 1 = 電源オン 2 = 冷却 3 = ウォーミングアップ
INPT	入力切り替え	11 = COMPUTER1 12 = COMPUTER2 21 = VIDEO 22 = S-VIDEO 31 = HDMI
INPT?	入力切り替えについて問い合わせます	
AVMT	ミュートコントロール	10 = BLANK 無効 11 = BLANK 有効 20 = オーディオのミュート無効 21 = オーディオのミュート有効 30 = BLANK およびオーディオのミュート無効 31 = BLANK およびオーディオのミュート有効
AVMT?	ミュートの状態について問い合わせます	
ERST?	エラー状態について問い合わせます	最初のバイト：ファンエラー、0 または 2 2 番目のバイト：ランプエラー、0 または 2 3 番目のバイト：温度エラー、0 または 2 4 番目のバイト：常に 0 5 番目のバイト：常に 0 6 番目のバイト：その他のエラー、0 または 2 * 0 または 2 の意味は次のとおりです。 0 = エラー検出なし、2 = エラー
LAMP?	ランプ状態について問い合わせます	1 番目の値（1 ～ 4 桁）：累積ランプ作動時間数 2 番目の値：0 = ランプオフ、1 = ランプオン
INST?	有効な入力について問い合わせます	次の値が返ります。 「11 12 21 22 31」
NAME?	プロジェクター名について問い合わせます	コマンドは **[Tools]** ページで指定したプロジェクター名で応答します。
INF1?	製造元について問い合わせます	「Canon」が返ります。

INF2?	モデル名について問い合わせます	「LX-MU500」または「LX-MW500」が返ります。
INF0?	その他の情報について問い合わせます	DMD 解像度が返ります。
CLSS?	クラス情報について問い合わせます	「1」が返ります。

☞
- 入力信号がスクリーンに表示された場合にのみ、**PJLink**「**INPT?**」に対する応答が返ります。入力信号が何もない場合は、**ERR3** が返ります。
- 次の状況では、上記の操作がおこなえない、あるいはデータの監視が正しくおこなわれない場合があります。
  - スタンバイ中
  - 入力ソース切り替え中
  - コマンド処理中
  - **AUTO PC** 実行時
  - 電源を入れた後、スプラッシュスクリーンが消える前
- **1** 台のコンピュータにつき **1** 台のプロジェクターの操作または監視をします。
- **PJLink™** を使用して操作または監視をする方法については、使用する **PJLink™** アプリケーションの取扱説明書を参照してください。
- 問い合わせコマンドを発信してプロジェクターの動作状態を監視する時は、プロジェクターが前回送信した問い合わせコマンドの応答を受信してから、次の問い合わせコマンドを送信してください。

プロジェクターがスタンバイモードにある時のネットワーク機能の使いかた

[システム設定 **:** 詳細 **]>[LAN** 設定 **]** メニューの **[** 待機 **LAN]** が有効になっている場合、プロジェクターはスタンバイモードの時にネットワーク機能を使用することができます。

用語集

下記の用語の詳しい説明については、市販されている技術書をお読みください。

用語	説明
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol の略。このプロトコルは、ネットワークに接続された機器に IP アドレスを自動的に割り当てます。
IP アドレス	ネットワークに接続されたコンピュータを識別するための数字によるアドレス。

サブネットマスク	IP アドレスで分割されたネットワーク（またはサブネット）のネットワークアドレスが使用するビット数を定義するための数値。
デフォルトゲートウェイ	サブネットマスクで分割されたネットワーク（サブネット）間で通信するためのサーバー（またはルーター）。

メニューの操作

メニューのシステム

オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューは、選択した信号のタイプにより異なります。

メインメニュー	サブメニュー		オプション
1. 表示	スクリーンカラー		オフ */ 薄い黄色 / ピンク / 薄い緑色 / 青 / 黒板
	アスペクト		オート */ リアル /**16:10/4:3/16:9**
	台形補正		
	角調整		
	位置		
	位相		
	水平総ドット数		
	D ズーム		
	3D		オート ***/Frame Sequential(** フレームシーケンシャル **)/Frame Packing (** フレームパッキング **)/Top-Bottom (** トップアンドボトム **)/ Side-By-Side (** サイドバイサイド **)**
	3D 同期		ノーマル */ 逆転
2. ピクチャー	イメージモード		プレゼンテーション / スタンダード ***/sRGB/** ムービー / **DICOM/** ユーザー設定 **1/** ユーザー設定 **2**
	明るさ		
	コントラスト		
	色の濃さ		
	色合い		
	シャープネス		
	BrilliantColor™		オン */ オフ
	色温度		高 / 中 */ 低
	6 軸色調整	色の選択	**R*/G/B/C/M/Y**
		色相	
		彩度	
		明るさ	
3. 入力	オートサーチ		オン */ オフ

☞ * は工場出荷時 **(** リセット後 **)** の設定です。

メインメニュー	サブメニュー		オプション
4. システム設定 : 基本	プレゼンテーションタイマー	プリセット時間	1 ～ 240 分
		タイマー表示	常に表示する */1 分 /2 分 / 3 分 / 常に表示しない
		位置	左上 */ 左下 / 右上 / 右下
		カウント方法	カウントダウン */ カウントアップ
		サウンドリマインダー	オン */ オフ
		オン / オフ *	
	言語 **(Language)**		English*/ Français / Deutsch Italiano / Español / Русский 繁體中文/ 简体中文/ 日本語/ 한국어 Svenska / Türkçe/ Čeština / Português ไทย/ Suomi/ Magyar/ العربية / Nederlands Română / Norsk / Dansk Polski / Казахский / Tiếng Việt
	反転表示		前面投写 */ リア投写 / 天吊り投写 / リア・天吊り投写
	オートパワーオフ		無効 /5 分 /10 分 /15 分 / 20 分 */25 分 /30 分
	ブランクタイマー		無効 */5 分 /10 分 /15 分 / 20 分 /25 分 /30 分
	パネルキーロック		オフ */ オン
	スリープタイマー		無効 */30 分 /1 時間 /2 時間 / 3 時間 /4 時間 /8 時間 /12 時間
	スプラッシュスクリーン		黒 / 青 /**Canon***

☞ * は工場出荷時の設定です。

メインメニュー	サブメニュー		オプション
5. システム設定：詳細	高地対応モード		オン / オフ *
	オーディオ設定	ミュート	オン / オフ *
		音量	
	メニュー設定	メニュー表示時間	5 秒 /10 秒 /15 秒 */20 秒 / 25 秒 /30 秒
		メニュー位置	中央 */ 左上 / 右上 / 右下 / 左下
	ランプ設定	ランプモード	ノーマル */ エコ
		ランプ時間リセット	
		ランプ時間	
	フィルタ設定	フィルタモード	オン / オフ *
		フィルタ時間をリセット	
	セキュリティ設定	パスワードの変更	
		電源ロック	オン / オフ *
	クローズドキャプション設定	クローズドキャプション	オン / オフ *
		キャプションチャンネル	**CC1***/**CC2**/**CC3**/**CC4**
	シリアルポートの設定		**RS232***/**HDBaseT**
	LAN 設定	待機 **LAN**	オフ */ オン
		PJLink 認証	オフ */ オン
		PJLink パスワードを変更	
		AMX デバイス検索	オフ / オン *
		DHCP	オフ */ オン
		プロジェクターの **IP** アドレス	
		サブネットマスク	
		デフォルトゲートウェイ	
		DNS サーバー	
		適用	
	全設定リセット		

☞ * は工場出荷時の設定です。

メインメニュー	サブメニュー	オプション
6. 情報	現在のシステム状態	入力
		イメージモード
		カラーフォーマット
		解像度
		ランプ時間
		フィルタ時間

☞
- * は工場出荷時 **(** リセット後 **)** の設定です。
- メニュー項目は、プロジェクターが入力信号を検出しなければ有効になりません。プロジェクターと機器が接続されていなかったり、入力信号が検出されない場合は、一部のメニューしか使用できません。

各メニューの説明

	機能	説明
1.[表示] メニュー	スクリーンカラー	投写面が白ではない場合、投写映像の色を補正します。詳しくは「スクリーンカラーを使う」(53 ページ) を参照してください。
	アスペクト	接続した機器の入力信号によって、映像の縦横比を設定するオプションが複数あります。詳しくは「縦横比を選ぶ」(48 ページ) を参照してください。
	台形補正	映像の台形ひずみを補正します。詳しくは「台形補正」(46 ページ) を参照してください。
	角調整	映像のコーナーの歪みを補正します。詳しくは「コーナー補正」(47 ページ) を参照してください。
	位置	位置調整ページが表示されます。投写映像を移動させるには、方向矢印キーを使用します。下部に表示される値は、矢印キーを押すごとに、最高値、または最低値まで変化します。
	位相	映像のひずみを低減するため、クロック位相を調整できます。
	水平総ドット数	映像の幅を調整します。
	D ズーム	投写映像を拡大表示します。詳しくは「映像を拡大して見るには」(48 ページ) を参照してください。
	3D	本機には 3D の映画、動画、スポーツイベントをリアルに体感できるよう、映像に奥行きを付けた 3D 機能を備えています。3D 映像をお楽しみいただくには、3D メガネを着用していただく必要があります。 詳しくは「3D コンテンツを見る」(58 ページ) を参照してください。
	3D 同期	映像の奥行きが反転している場合、この機能を有効にして問題を解決します。

	機能	説明
2.[ピクチャー] メニュー	イメージモード	あらかじめ定義したイメージモードを利用すると、ご使用の映像入力に適したプロジェクターの映像を設定することができます。詳しくは「イメージモードの選択」(50 ページ) を参照してください。
	明るさ	映像の明るさを調整します。詳しくは「明るさの調整」(51 ページ) を参照してください。
	コントラスト	映像の暗さと明るさの差を調整します。詳しくは「コントラストの調整」(51 ページ) を参照してください。
	色の濃さ	映像の各色の量を調整します。詳しくは「色の濃さの調整」(51 ページ) を参照してください。
	色合い	映像の色調を調整します。詳しくは「色合いの調整」(51 ページ) を参照してください。 ☞ この機能は **NTSC** 規格が選択され、**Video** または **S-Video** が選択されている場合にのみ使用できます。
	シャープネス	映像がシャープまたはソフトになるように調整します。詳しくは「シャープネスの調整」(51 ページ) を参照してください。
	BrilliantColor™	適切な色合いのまま、輝度を調整します。詳しくは「BrilliantColor™ 調整」(51 ページ) を参照してください。
	色温度	詳しくは「色温度の選択」(52 ページ) を参照してください。
	6 軸色調整	詳しくは「6 軸色調整によるカラーマネージメント」(52 ページ) を参照してください。
3.[入力] メニュー	オートサーチ	この機能をオンにすると選択されている入力端子に映像信号が入力されていない時に、映像信号の入力されている入力端子を探して映像を投写する。

	機能	説明
4.[システム設定：基本 **]** メニュー	プレゼンテーションタイマー	プレゼンテーションの発表者に残りの持ち時間を知らせます。詳しくは「プレゼンテーションタイマーを設定する」(53 ページ) を参照してください。
	言語 **(Language)**	オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューの言語を設定します。詳しくは「メニューの使いかた」(41 ページ) を参照してください。
	反転表示	詳しくは「設置場所を決める」(24 ページ) を参照してください。
	オートパワーオフ	設定した時間を経過しても入力が検出されないときに、自動的にプロジェクターの電源を切ることができます。詳しくは「オートパワーオフを設定する」(81 ページ) を参照してください。
	ブランクタイマー	ブランク機能が有効になっているとき、映像をブランクにしておく時間を設定します。ここで設定した時間が経過すると、画面は元に戻ります。詳しくは「映像を消す」(55 ページ) を参照してください。
	パネルキーロック	**【⏻POWER】**ボタン以外のプロジェクターのすべてのパネルキー機能と、リモコンのキーを無効または有効にします。詳しくは「コントロールキーをロックする」(55 ページ) を参照してください。
	スリープタイマー	自動的にシャットダウンするまでのタイマーを設定します。タイマーは 30 分から 12 時間までの範囲で設定できます。
	スプラッシュスクリーン	プロジェクター起動時に表示される画面を選択できます。詳しくは「プロジェクターのメニュー表示をカスタマイズする」(57 ページ) を参照してください。
5.[システム設定：詳細 **]** メニュー	高地対応モード	海抜 **1,500** ～ **3,000m**、温度 **0** ～ **30** ℃の範囲内でプロジェクターを使用するときは、この機能を **[** オン **]** に設定してシステムの性能を最適に保ちます。 海抜 **0** ～ **1,499m**、温度 **0** ～ **35** ℃の範囲内でプロジェクターを使用するときは、**[** 高地対応モード **]** を **[** オフ **]** に設定します。 **[** 高地対応モード **]** を **[** オン **]** に設定した場合、冷却ファンの回転が高速になるため作動音が大きくなり、消費電力も増えます。
	オーディオ設定	詳しくは「音量を調整する」(56 ページ) を参照してください。
	メニュー設定	詳しくは「プロジェクターのメニュー表示をカスタマイズする」(57 ページ) を参照してください。

機能	説明
ランプ設定	**[** ランプモード **]** 詳しくは「ランプモードを [エコ] に設定する」(81 ページ) を参照してください。 **[** ランプ時間リセット **]** 詳しくは「ランプタイマーをリセットする」(86 ページ) を参照してください。 **[** ランプ時間 **]** ランプの合計使用時間を計算する方法については、「ランプ時間を知るには」(81 ページ) を参照してください。
フィルタ設定	【フィルタモード】 フィルタータイマーのカウントを開始または再開することができます。詳しくは「**[** フィルタモード **]** を **[** オン **]** に設定する」**(79** ページ **)** を参照してください。 【フィルタ時間をリセット】 フィルター交換後にのみ、フィルタータイマーをリセットします。詳しくは「フィルタータイマーをリセットする」**(79** ページ **)** を参照してください。
セキュリティ設定	詳しくは「パスワード機能の使いかた」(42 ページ) を参照してください。
クローズドキャプション設定	クローズドキャプション設定 選択した入力信号がクローズドキャプションを送信する場合は、**[** オン **]** を選択して機能を有効にします。 • キャプションとは、クローズドキャプション対応の（通常「CC」と記載されます）テレビ番組やビデオの会話、ナレーション、サウンド効果の画面表示のことです。 ☞ プロジェクターが **OSD** メニューまたはダイアログを表示しているときには、同時にキャプションは表示されません。 **[** キャプションチャンネル **]** 任意のクローズドキャプションモードを選択します。キャプションを表示するには、**[CC1]**、**[CC2]**、**[CC3]**、**[CC4]**（**[CC1]** はキャプションをその地域の第一言語で表示します）の中から選択します。

機能		説明
5.[システム設定：詳細 **]** メニュー	シリアルポートの設定	次のいずれかの制御用端子を選択することができます。 **RS232** 端子（プロジェクターのコントロール端子）経由または **HDBaseT** 端子（プロジェクターの **LAN/HDBaseT** 入力端子）経由
	LAN 設定	LAN ケーブルで接続している場合は「コンピュータによる管理と操作」(60 ページ) を参照してください。 PJLink™ アプリケーションを使用している場合は、「PJLink™ アプリケーションを使ってプロジェクターを操作する」(65 ページ) を参照してください。
	全設定リセット	すべての設定を工場出荷時の値に戻します。 ☞ 以下の設定は現在の設定値のまま維持されます。**[** ユーザー設定 **1]**、**[** ユーザー設定 **2]**、**[** 言語 **(Language)]**、**[** 反転表示 **]**、**[** 高地対応モード **]**、**[** セキュリティ設定 **]**、**[LAN** 設定 **]**、**【PJLink** パスワード**】**、**UI** 上の**【"Tools"** メニュー**】**。
6.[情報 **]** メニュー	現在のシステム状態	**[** 入力 **]** 現在の入力信号を表示します。 **[** イメージモード **]** メニューで選択したモードを表示します。 **[** 解像度 **]** 入力信号の解像度を表示します。 **[** カラーフォーマット **]** 入力システムの形式を表示します。 **[** ランプ時間 **]** ランプの使用時間を表示します。 **[** フィルタ時間 **]** フィルタの使用時間を表示します。

メンテナンス

プロジェクターを清掃する

ご使用のプロジェクターは環境に応じて定期的なメンテナンスが必要です。メンテナンスは専門の技術者がおこないます。詳しくは、販売店にご相談ください。

レンズの清掃、キャビネットの清掃、エアフィルターの交換は、お客様自身で定期的に行ってください。

ランプとエアフィルターカバー以外の部品は、一切取り外さないでください。ランプとエアフィルター以外の部品で交換が必要な場合は、販売店にご相談ください。

内部の清掃を依頼する

長年のご使用で内部にホコリがたまると火災や故障の原因となることがあります。掃除は梅雨の前が効果的です。費用などは販売店にご相談ください。

レンズの清掃

レンズの表面に汚れやほこりが付いていたら、レンズをクリーニングします。

- 圧縮空気スプレーを使用してほこりを取り除きます。
- 汚れやしみが付いた場合は、レンズクリーニングペーパーまたはレンズクリーナーで湿らせた柔らかい布でレンズの表面を軽く拭きます。
- レンズは絶対に研磨剤でこすらないでください。

プロジェクター本体のクリーニング

プロジェクターのお手入れを行う前に、「プロジェクターの電源を切る」(57 ページ) に記載されている手順でプロジェクターの電源を切り、電源コードを抜いてください。

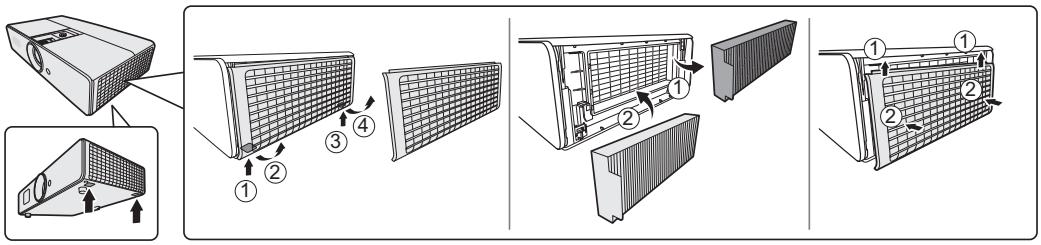
- ほこりや汚れを取り除くには、柔らかい、けば立ちのない布で拭きます。
- 落ちにくい汚れやしみを取り除くには、水で薄めた中性洗剤に布を浸してよく絞り、プロジェクターを拭きます。
- ワックス、アルコール、ベンジン、シンナー、その他の化学洗剤は使用しないでください。プロジェクターを傷める場合があります。
- ランプが点灯しているときに、可燃性のものを近づけると火災や故障の原因となります。

エアフィルターの交換

本機専用のエアフィルター LX-FL02 を使用していることを確認してください。エアフィルターは本機には同梱されていません。エアフィルターの購入については、販売店にご相談ください。

エアフィルターを交換する前に、「プロジェクターの電源を切る」(57 ページ) に記載されている手順でプロジェクターの電源を切り、電源コードを抜いてください。

下の図に従って、エアフィルター（LX-FL02）を交換します。



[フィルタモード **]** を **[** オン **]** に設定する

エアフィルターを正しく装着した状態で本機を使用する場合にのみ、[フィルタモード] を [オン] に設定してください。さもないと、ランプの寿命が短くなる原因になります。

1. **【MENU】**ボタンを押し、[システム設定 : 詳細] メニューが表示されるまで、**【◀/▶**（左 / 右）**】**ボタンを押してください。
2. **【▼**（下）**】**ボタンを押して [フィルタ設定] を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。[フィルタ設定] ページが表示されます。
3. **【▼**（下）**】**ボタンを押して [フィルタモード] を選択し、**【◀/▶**（左 / 右）**】**ボタンを押して [オン] を選択します。

エアフィルターを取り外した状態で本機を使用するときは、必ず [フィルタモード] を [オフ] に設定します。こうすることにより、フィルタータイマーはリセットされません。フィルターを再度取り付け、[フィルタモード] を [オン] に設定すると、タイマーはカウントを再開します。

フィルタータイマーをリセットする

新しいフィルターを取り付けたら、フィルタータイマーをリセットします。

1. **【MENU】**ボタンを押し、[システム設定 : 詳細] メニューが表示されるまで、**【◀/▶**（左 / 右）**】**ボタンを押してください。
2. **【▼**（下）**】**ボタンを押して [フィルタ設定] を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。[フィルタ設定] ページが表示されます。
3. **【▼**（下）**】**ボタンを押して [フィルタ時間をリセット] を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。フィルタータイマーをリセットしてもよいかどうかを確認する警告メッセージが表示されます。[リセット] を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。フィルタ時間が「0」にリセットされます。

プロジェクターの保管

長期間プロジェクターを保管するときは、次の手順に従ってください。

- 保管場所の温度が、適用範囲内であることを確認してください。詳しくは、「仕様」(91 ページ) を参照するか、販売店にご相談ください。
- 調整脚を格納します。
- リモコンから電池を取り外します。
- プロジェクターを梱包時の状態にします。

プロジェクターの移動

プロジェクターを移動するときは、梱包時の状態で搬送することをお勧めします。

ランプについて

ランプ時間を知るには

プロジェクターが動作している間、プロジェクターに内蔵されたタイマーがランプの使用時間（時間単位）を自動的に計算します。ランプ時間の計算方法は次の通りです。

合計ランプ時間 =（**[** ノーマル **]** モードでの使用時間）+（**[** エコ **]** モードでの使用時間）×4/5

☞ エコモードについて詳しくは、下記の「ランプモードを **[** エコ **]** に設定する」を参照してください。

ランプの使用時間を調べるには :

1. **【MENU】**ボタンを押し、**[** システム設定 : 詳細 **]** メニューが表示されるまで**【◀/▶**（左 / 右）**】**ボタンを押してください。
2. **【▼**（下）**】**ボタンを押して **[** ランプ設定 **]** を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。**[** ランプ設定 **]** ページが表示されます。
3. メニューに **[** ランプ時間 **]** の情報が表示されます。
4. **【MENU】**ボタンを押して、メニューを消します。

また、**[** 情報 **]** メニューでは、ランプの使用時間の情報を見ることができます。

ランプを長く使用するには

ランプは消耗品です。交換時間の目安は 2000（[ノーマル] モードで使用した場合）～ 2500（[エコ] モードで使用した場合）時間です。この時間は交換の目安であり、ランプの寿命を保証するものではありません。

ランプの寿命をできるだけ長く維持するには、OSD メニューで次の設定を行ってください。

ランプモードを **[** エコ **]** に設定する

[エコ **]** モードに設定すると、システムノイズと電力消費量をほぼ 20% 低減することができます。**[** エコ **]** モードを選択すると、明るさが低減され、投写映像が暗くなります。

プロジェクターを **[** エコ **]** モードに設定すると、ランプの寿命も延びます。
[エコ **]** モードに設定するには、**[** システム設定 : 詳細 **]>[** ランプ設定 **]>[** ランプモード **]** メニューを表示し、**【◀/▶**（左 / 右）**】**ボタンを押します。

☞
- エコモードに設定すると、映像がちらつくことがあります。
- エコモードへの切り替えを頻繁に行うと、ランプが劣化する場合があります。

オートパワーオフを設定する

指定した時間を経過しても入力信号が検出されないとき、ランプの寿命を消耗しないように自動的にプロジェクターの電源を切ることができます。

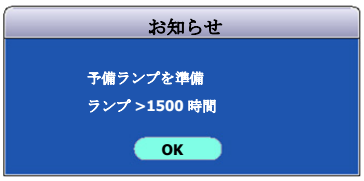
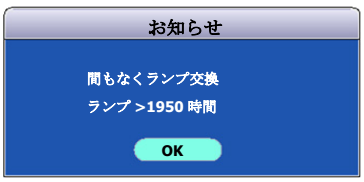
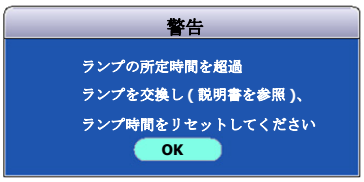
[オートパワーオフ **]** を設定するには、**[** システム設定 : 基本 **]>**
[オートパワーオフ **]** メニューを表示し、**【◀/▶**（左 / 右）**】**ボタンを押します。タイマーは 5 分から 30 分の範囲で 5 分おきに設定できます。設定する時間がない場合は、**[** 無効 **]** を選択してください。時間が経過してもプロジェクターの電源は自動的に切れません。

ランプ交換の時期について

LAMP（ランプインジケーター）が赤に点灯したり、ランプの交換時期であることを示すメッセージが表示された場合、新しいランプに交換するか、販売店にご相談ください。古いランプを使用すると、プロジェクターの誤動作の原因となり、ランプが破裂することもあります。

⚠ ランプの温度が高温になると、**LAMP**（ランプインジケーター）と **TEMP**（温度インジケーター）が点灯します。電源を切り、約 **45** 分放置し、プロジェクターを常温にしてください。再度、プロジェクターの電源を入れたときに、**TEMP**（温度インジケーター）または **LAMP**（ランプインジケーター）が点灯する場合は、販売店にご相談ください。詳しくは「**LED** インジケーターの表示について」**(88** ページ **)** を参照してください。

以下のランプについての警告が表示された場合、ランプを交換してください。

状態	メッセージ
ランプの動作時間が 1500 時間に達しました。プロジェクターの性能を上げるため、新しいランプと交換してください。プロジェクターを **[** エコ **]** モードで使用している場合（「ランプモードを [エコ] に設定する」(81 ページ) を参照してください)、ランプの動作時間が 1950 時間のランプ警告メッセージが表示されるまで使用することができます。	
ランプの動作時間が 1950 時間に達しました。新しいランプに交換すると、ランプが切れる不具合を避けられます。	
ランプの動作時間が 2000 時間に達しました。今すぐにランプを交換してください ⚠ ランプは消耗品です。ランプの明るさは使用時間とともに徐々に失われます。ランプが暗くなった場合、またはランプの使用時間が **2000** 時間を超えたら、ランプを交換してください。	
プロジェクターが正常に動作するためには、ランプの交換が必要です。	

ランプを交換する

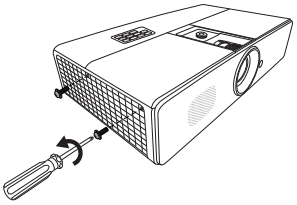
ランプの品番 : LX-LP02

ランプを交換するときは、別売りのランプを使用してください。ランプの購入については、販売店にご相談ください。

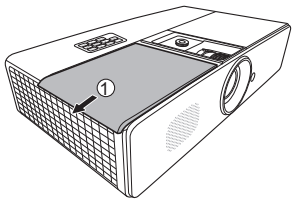
⚠
- 感電を防ぐため、ランプを交換する前に必ずプロジェクターの電源を切り、電源コードを抜いてください。
- やけどを防ぐため、ランプを交換する前に、**45** 分以上はプロジェクターを冷却してください。
- ランプ交換後の画質の劣化を避けるため、ランプを取り外す時に光学部品には触れないでください。
- ランプはしっかりと取り付けてください。ランプが正しく取り付けられていないと、点灯しません。また、正しく取り付けないと火災の原因となる恐れがあります。
- ランプが壊れる恐れがあるため、ランプボックスを揺すったり、取り外した後に顔の正面で持たないでください。ガラス片が落下して目を傷つける恐れがあります。
- ランプが破裂した場合、ガラス片がプロジェクター内部に散乱している可能性があります。販売店にランプの交換とプロジェクター内部の検査を依頼してください。お客様自身で内部を片づけたり、ランプを交換したりする場合は、ランプの取っ手を持つようにしてください。ガラス片でけがをする恐れがあります。
- プロジェクターが天井に取り付けられている場合は、販売店にご相談ください。
- ランプを交換以外の目的では取り外さないでください。ランプを不必要に取り外すと破損する場合があります。
- 本機は高圧水銀ランプを光源として使用しています。高圧水銀ランプはショックを与えたり、傷つけたり、使用時間の経過による劣化などで、破裂したり、点灯しなくなったりすることがあります。
- ランプの時間はランプの個体差や使用条件によって差があるため、交換後すぐに破裂する可能性もあります。
- ランプの交換時期を超えた場合、破裂する可能性が高まります。ランプ交換のメッセージが表示されたら、ランプが正常に点灯している状態でも速やかに新しいランプと交換してください。
- 高圧水銀ランプが破裂すると、ガラスの破片がランプボックスの内部または外部に飛散し、プロジェクターの内部または外部にランプ内のガスが充満します。このランプ内のガスには水銀が入っています。ガスを吸い込んだり、目や口に入らないようにしてください。万が一、吸い込んでしまったり、目や口に入ってしまった場合は、すみやかに医師にご相談ください。
- このランプには水銀が入っています。使用済みの水銀ランプを捨てるときは、蛍光灯と同じ取り扱いで各自治体の条例に従って廃棄してください。

- 本機専用のランプ **(LX-LP02)** をお使いください。他のランプを使用すると、プロジェクターの故障の原因となります。

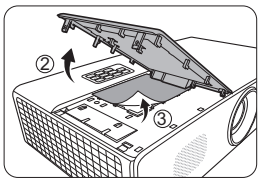
1. プロジェクターの電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜きます。ランプが高温になっている場合は、やけどを防ぐためにランプを約 45 分冷却します。
2. ランプカバーのネジを外します。



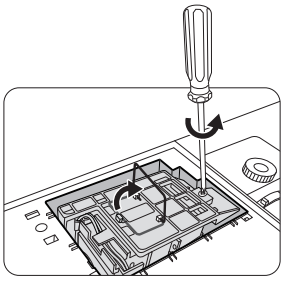
3. プロジェクターからランプカバーを外します。
   ①の方向にスライドさせて、②の方向に開いてください。



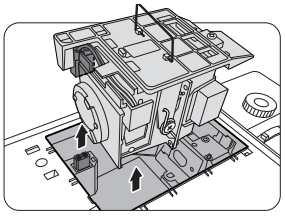
⚠ • ランプカバーを外したまま、プロジェクターの電源を入れないでください。



4. 後で新しいランプ保護フィルムを同じ位置に貼りますので、貼り位置を確認します。ランプ保護フィルムをはがし、はがしたランプ保護フィルムは破棄します。
5. ランプを固定しているネジを緩めます。



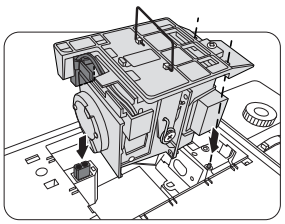
6. 取っ手を上に持ち上げ、ランプをプロジェクターからゆっくりと引き出します。



⚠ • 急に引っ張るとランプが割れ、ガラスの破片がプロジェクター内に散乱する恐れがあります。

- 取り出したランプは、水のかかる場所、子供の手の届く場所、可燃物の付近には置かないでください。
- ランプを取り外した後、プロジェクター内に指を入れないでください。内部の光学部品に手を触れると、映像の色が不均一になりひずむ場合があります。

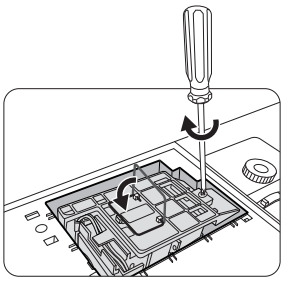
7. 図のように、新しいランプとランプコンパートメントの穴を合わせながら、新しいランプを挿入してください。ランプがプロジェクターに固定されていることを確認してください。



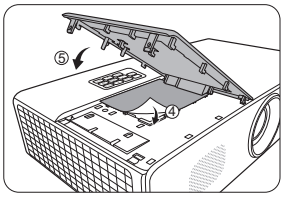
8. ランプを固定しているネジを締めます。

⚠
- ネジの締め方がゆるいと接触が悪くなり、故障の原因になる場合があります。
- ネジを締めすぎないでください。

9. 取っ手を水平に戻し、ロックされていることを確認してください。

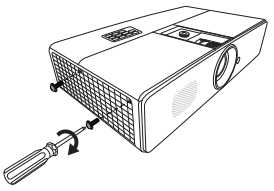


10. 新しいランプに付属のランプ保護フィルムをランプコンパートメントに貼ります。(④)
11. 図のように、ランプカバーを閉じます。(⑤)



12. ランプカバーを固定しているネジを締めます。

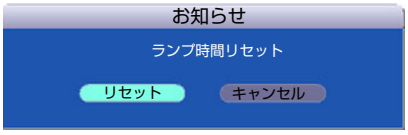
⚠
- ネジの締め方がゆるいと接触が悪くなり、故障の原因になる場合があります。
- ネジを締めすぎないでください。



13. プロジェクターを再起動してください。

⚠ ランプカバーを外したまま、電源を入れないでください。

ランプタイマーをリセットする



14. スタートアップロゴの次に、OSD メニューが表示されます。
15. **[** システム設定 : 詳細 **]>[** ランプ設定 **]** メニューを表示します。**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。**[** ランプ設定 **]** ページが表示されます。**【▼(下)】**ボタンを押して **[** タイマーのリセット **]** を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押してください。ランプタイマーをリセットしても良いかどうかを確認する警告メッセージが表示されます。**[** リセット **]** を選択し、**【OK/IMAGE】**ボタンを押します。ランプ時間が「0」にリセットされます。

⚠ ランプを交換していない場合は、ランプタイマーをリセットしないでください。

付録

LED インジケーターの表示について

ライト			動作状態
POWER	**TEMP**	**LAMP**	
電源の状況			
オレンジ 点灯	オフ	オフ	スタンバイ状態です。
緑点滅	オフ	オフ	電源を入れています。
緑点灯	オフ	オフ	通常動作状態です。
オレンジ 点滅	オフ	オフ	通常の電源オフ時の冷却中です。
赤点灯	オフ	オフ	FW ダウンロード。
緑点灯	オフ	赤点灯	カラーホイールの開始に失敗しました。
赤点滅	オフ	オフ	スケーラーシャットダウンに失敗しました(データ中止)。
バーンインの状況			
緑点灯	オフ	オフ	バーンイン オン
緑点灯	緑点灯	緑点灯	バーンイン オフ
ランプの状況			
オフ	オフ	赤点灯	通常動作状態のランプエラーです。
オフ	オフ	赤点滅	ランプが点灯していません。
温度の状況			
赤点灯	赤点灯	オフ	ファンエラー 1 です。ファンの回転数が異常です（設定値から 25% 以上外れています)。
赤点灯	赤点滅	オフ	ファンエラー 2 です。ファンの回転数が異常です（設定値から 25% 以上外れています)。
赤点灯	緑点灯	オフ	ファンエラー 3 です。ファンの回転数が異常です（設定値から 25% 以上外れています)。
赤点灯	緑点滅	オフ	ファンエラー 4 です。ファンの回転数が異常です（設定値から 25% 以上外れています)。
赤点滅	赤点灯	オフ	ファンエラー 5 です。ファンの回転数が異常です（設定値から 25% 以上外れています)。
赤点滅	赤点滅	オフ	ファンエラー 6 です。ファンの回転数が異常です（設定値から 25% 以上外れています)。
緑点灯	赤点灯	オフ	温度 1 エラー（制限温度、55 ℃を超えています)。

故障かなと思ったら

? プロジェクターの電源が入らない

原因	対応
電源が正しく接続されていない。	電源コードをプロジェクターの電源コード端子とコンセントに差し込みます。コンセントにスイッチがある場合は、スイッチがオンになっていることを確認してください。
冷却中にプロジェクターの電源を入れようとしている	冷却が終わるまでお待ちください。

? 映像が映らない

原因	対応
ビデオ機器の電源が入っていないか、正しく接続されていない。	ビデオ機器の電源を入れ、接続ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
プロジェクターが正しく映像機器に接続されていない。	接続を確認してください。
入力信号が正しく選択されていない。	プロジェクターまたはリモコンの**【INPUT】**ボタンで正しい入力信号を選択してください。

? 映像が鮮明でない

原因	対応
投写レンズの焦点が合っていない。	フォーカスリングで焦点を合わせてください。
プロジェクターとスクリーンの位置が正しく合っていない。	投写角度および方向、必要であれば機器の高さを調整してください。
PC 映像が安定しない。	プロジェクターかリモコンの**【AUTO PC】**ボタンを押して [オート **PC**] をおこなってください。

? リモコンが機能しない

原因	対応
電池が切れている。	新しい電池に交換してください。
リモコンとプロジェクターの間に障害物がある。	障害物を取り除いてください。
プロジェクターからの距離が遠すぎる。	プロジェクターから 8 m 以内の距離で操作してください。

⑦パスワードが間違っている

原因	対応
パスワードを忘れた。	詳しくは「パスワード機能を無効にする」(43 ページ) を参照してください。

⑦**LAN** 機能が使用できない

原因	対応
LAN コントロール設定または LAN ケーブル接続について、問題がある可能性があります。	LAN コントロール設定を確認してください。詳しくは「LAN を設定する」(60 ページ) を参照してください。LAN ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
Web ブラウザに Web ページが表示されない、または Web ページのからの応答が無い。	スクリーンを更新した後、ページを再度読み込んだり、データを確認してください。データが表示されない場合は、プロジェクターの IP アドレスを確認して再度ログインしてください。

仕様

プロジェクターの仕様

☞仕様はすべて予告なしに変更されることがあります。

型名		LX-MW500	LX-MU500
表示方式		1チップ DLP™	
光学方式		時分割色抽出・順次表示	
表示素子	形式	DMD	
	サイズ / アスペクト比	0.65 型 x 1 /16:10	0.67 型 x 1 /16:10
	駆動方式	DLP™ x 1 チップ	
	画素数 / 総画素数	1,024,000 (1280 x 800) x 1 枚 / 1,024,000	2,304,000 (1920 x 1200) x 1 枚 / 2,304,000
投写レンズ	ズーム比 / 焦点距離 / F 値	1.6 倍 / 15.75–25.1mm / F2.45–3.07	
	ズーム / フォーカス方式	手動 / 手動	
	レンズシフト	V: +55%~+57.5%、水平方向は固定	V: +52.5%~+55%、水平方向は固定
光源		NSHA370QS ランプ 370W	
画面サイズ (投写距離)		W: 60~240 型 (1.45–5.82m) T: 60~150 型 (2.33–5.82m)	W: 60~240 型 (1.38–5.54m) T: 60~150 型 (2.2–5.54m)
再現色数		1,677 万色 (フルカラー)	
明るさ *1 (プレゼンテーションモード、HDMI 入力時)		5000 ルーメン	
コントラスト比 *1		3750:1 (全白：全黒、プレゼンテーションモード、アナログ PC 入力時)	2500:1 (全白：全黒、プレゼンテーションモード、アナログ PC 入力時)
周辺照度比 *1		75%	
スピーカー		10W・モノラル x 1	
最大入力解像度		1280 x 800 ドット	1920 x 1200 ドット

型名		LX-MW500	LX-MU500
映像信号	アナログ PC 入力	WUXGA*/WSXGA+/UXGA/SXGA+/WXGA+/FWXGA/WXGA/SXGA/XGA/SVGA/VGA/MAC	
	HDMI 入力	コンピューターと接続時：WUXGA*/WSXGA+/UXGA/SXGA+/WXGA+/FWXGA/WXGA/SXGA/XGA/SVGA/VGA AV 機器と接続時：1080p/1080i/720p/576p/480p	
	コンポーネントビデオ入力	1080p/1080i/720p/576p/576i/480p/480i	
	ビデオ入力	NTSC/PAL/SECAM/NTSC4.43/PAL-M/PAL-N/PAL-60	
	S ビデオ入力	NTSC/PAL/SECAM/NTSC4.43/PAL-M/PAL-N/PAL-60	
接続端子	ミニ Dsub15 x2	アナログ PC / コンポーネントビデオ入力	
	ミニ Dsub15	アナログ PC / コンポーネントビデオ出力	
	HDMI/MHL	デジタル PC / デジタルビデオ / MHL 入力	
	HDMI	デジタル PC / デジタルビデオ入力	
	ミニ DIN4	S ビデオ入力	
	RCA x 3	ビデオ入力 / Audio-L / Audio-R	
	ミニジャック x2	音声入力 x1、音声出力 x1	
	Dsub9	RS-232C 接続	
	RJ-45	ネットワーク接続（100BASE-TX / 10BASE-T）/ HDBaseT 入力	
	USB mini B	サービスポート	
	USB type A	電源供給（5V/1.5A）	
入力信号	デジタル PC	TMDS (Transition Minimized Differential Signaling)	
	アナログ PC	0.7Vp-p、正極性、インピーダンス 75Ω 水平・垂直同期：TTL レベル、負または正	
	コンポーネントビデオ	コンポーネント：セパレート Y Cb / Pb Cr / Pr 信号 Y ；1Vp-p、同期負、インピーダンス 75Ω Cb / Pb ；0.7Vp-p、インピーダンス 75Ω Cr / Pr ；0.7Vp-p、インピーダンス 75Ω	
	音声	インピーダンス 47ＫΩ 以上	
騒音		36 / 33dB (ランプモード ノーマル / エコ)	

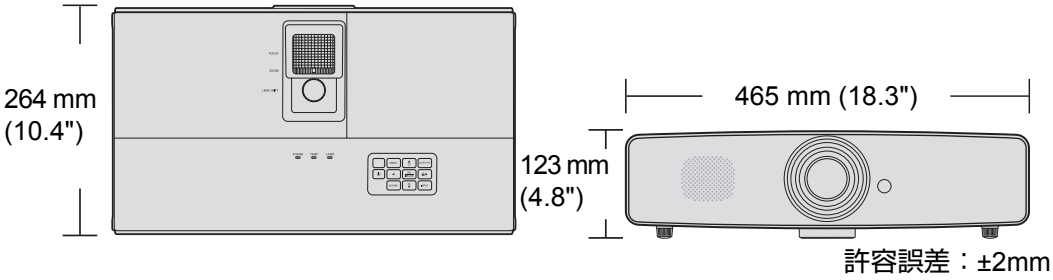
***LX-MU500** のみ

型名	LX-MW500	LX-MU500
使用温度範囲	0°C~40°C	
電源	AC100V~240V 50 / 60Hz	
消費電力	560 W (ノーマル)、< 400 W (エコ) < 0.5 W （スタンバイ）[待機 LAN]: オフ時 < 3 W（スタンバイ）[待機 LAN]: オン時	
本体寸法	W: 465 mm、H: 123 mm、D: 264 mm (突起部含む) W: 465 mm、H: 112 mm、D: 261 mm (突起部含まず)	
質量	5.4 kg	
付属品	リモコン、リモコン用ボタン電池、電源コード、 コンピューターケーブル、かんたんガイド、 使用説明書 (本書) 、重要なおしらせ、保証書	

- ***1** 出荷時における本プロジェクターの値を示しており、**JIS X 6911: 2015** データプロジェクターの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については付属書 **2** に基づいています。
- 長時間・連続使用する際は、光学部品の劣化を早めることがありますのでご注意ください。
- 本機は **JIS C 61000-3-2** 適合品です。
- 製品の仕様及び外観の一部を予告なく変更することがあります。

寸法

465 mm (W) x 123 mm (H) x 264 mm (D) / 18.3" (W) x 4.8" (H) x 10.4" (D)
（突起部を含む）



許容誤差：±2mm

対応信号

コンピュータ入力

解像度	モード	リフレッシュレート (Hz)	水平周波数 (kHz)	クロック周波数 (MHz)
720 x 400	720 x 400_70	70.087	31.469	28.3221
640 x 480	VGA_60*	59.940	31.469	25.175
	VGA_72	72.809	37.861	31.500
	VGA_75	75.000	37.500	31.500
	VGA_85	85.008	43.269	36.000
800 x 600	SVGA_60*	60.317	37.879	40.000
	SVGA_72	72.188	48.077	50.000
	SVGA_75	75.000	46.875	49.500
	SVGA_85	85.061	53.674	56.250
	SVGA_120**（ブランキングを低減）	119.854	77.425	83.000
1024 x 768	XGA_60*	60.004	48.363	65.000
	XGA_70	70.069	56.476	75.000
	XGA_75	75.029	60.023	78.750
	XGA_85	84.997	68.667	94.500
	XGA_120**（ブランキングを低減）	119.989	97.551	115.500
1152 x 864	1152 x 864_75	75.00	67.500	108.000
1280 x 720	1280 x 720_60*	60	45.000	74.250
1280 x 768	1280 x 768_60*	59.870	47.776	79.5
1280 x 800	WXGA_60	59.810	49.702	83.500
	WXGA_75	74.934	62.795	106.500
	WXGA_85	84.880	71.554	122.500
	WXGA_120**（ブランキングを低減）	119.909	101.563	146.25
1280 x 1024	SXGA_60***	60.020	63.981	108.000
	SXGA_75	75.025	79.976	135.000
	SXGA_85	85.024	91.146	157.500
1280 x 960	1280 x 960_85	85.002	85.938	148.500
1360 x 768	1360 x 768_60***	60.015	47.712	85.500
1366 x 768	1366 x 768_60	59.790	47.712	85.500
1440 x 900	WXGA+_60***	59.887	55.935	106.500
1400 x 1050	SXGA+_60***	59.978	65.317	121.750
1600 x 1200	UXGA***	60.000	75.000	162.000
1680 x 1050	1680 x 1050_60***	59.954	65.290	146.250

640 x 480 @67Hz	MAC13	66.667	35.000	30.240
832 x 624 @75Hz	MAC16	74.546	49.722	57.280
1024 x 768 @75Hz	MAC19	75.020	60.241	80.000
1152 x 870 @75Hz	MAC21	75.06	68.68	100.00
1920 x 1080 @60Hz	1920 x 1080_60 (ブランキングを低減)	60	67.5	148.5
1920 x 1200 @60Hz	WUXGA_60**** (ブランキングを低減)	59.950	74.038	154.00

☞ ***Frame Sequential (** フレームシーケンシャル **)**、**Top-Bottom (** トップアンドボトム **)**、**Side-By-Side (** サイドバイサイド **)** 形式での **3D** 信号のタイミングをサポートしています。

****Frame Sequential (** フレームシーケンシャル **)** 形式での **3D** 信号のタイミングをサポートしています。

*****Top-Bottom (** トップアンドボトム **)** および **Side-By-Side (** サイドバイサイド **)** 形式での **3D** 信号のタイミングをサポートしています。

******LX-MU500** のみ

HDMI（HDCP）入力

コンピュータの場合

解像度	モード	垂直周波数 (Hz)	水平周波数 (kHz)	クロック周波数 (MHz)
720 x 400	720 x 400_70	70.087	31.469	28.3221
640 x 480	VGA_60*	59.940	31.469	25.175
	VGA_72	72.809	37.861	31.500
	VGA_75	75.000	37.500	31.500
	VGA_85	85.008	43.269	36.000
800 x 600	SVGA_60*	60.317	37.879	40.000
	SVGA_72	72.188	48.077	50.000
	SVGA_75	75.000	46.875	49.500
	SVGA_85	85.061	53.674	56.250
	SVGA_120** (ブランキングを低減)	119.854	77.425	83.000
1024 x 768	XGA_60*	60.004	48.363	65.000
	XGA_70	70.069	56.476	75.000
	XGA_75	75.029	60.023	78.750
	XGA_85	84.997	68.667	94.500
	XGA_120** (ブランキングを低減)	119.989	97.551	115.500
1152 x 864	1152 x 864_75	75.00	67.500	108.000

1280 x 720	1280 x 720_60*	60	45.000	74.250
1280 x 768	1280 x 768_60*	59.870	47.776	79.5
1280 x 800	WXGA_60*	59.810	49.702	83.500
	WXGA_75	74.934	62.795	106.500
	WXGA_85	84.880	71.554	122.500
	WXGA_120**（ブランキングを低減）	119.909	101.563	146.25
1280 x 1024	SXGA_60***	60.020	63.981	108.000
	SXGA_75	75.025	79.976	135.000
	SXGA_85	85.024	91.146	157.500
1280 x 960	1280 x 960_85	85.002	85.938	148.500
1360 x 768	1360 x 768_60***	60.015	47.712	85.500
1366 x 768	1366 x 768_60	59.790	47.712	85.500
1440 x 900	WXGA+_60***	59.887	55.935	106.500
1400 x 1050	SXGA+_60****	59.978	65.317	121.750
1600 x 1200	UXGA***	60.000	75.000	162.000
1680 x 1050	1680 x 1050_60***	59.954	65.290	146.250
640 x 480 @67Hz	MAC13	66.667	35.000	30.240
832 x 624 @75Hz	MAC16	74.546	49.722	57.280
1024 x 768 @75Hz	MAC19	75.020	60.241	80.000
1152 x 870 @75Hz	MAC21	75.06	68.68	100.00
1920 x 1080 @60Hz	1920 x 1080_60（ブランキングを低減）	60	67.5	148.5
1920 x 1200 @60Hz	WUXGA_60*****（ブランキングを低減）	59.950	74.038	154.00

☞ ***Frame Sequential (** フレームシーケンシャル **)**、**Top-Bottom (** トップアンドボトム **)**、**Side-By-Side (** サイドバイサイド **)** 形式での **3D** 信号のタイミングをサポートしています。

****Frame Sequential (** フレームシーケンシャル **)** 形式での **3D** 信号のタイミングをサポートしています。

*****Top-Bottom (** トップアンドボトム **)** および **Side-By-Side (** サイドバイサイド **)** 形式での **3D** 信号のタイミングをサポートしています。

******Top-Bottom (** トップアンドボトム **)** 形式での **3D** 信号のタイミングをサポートしています。

*******LX-MU500** のみ

MHL 入力

タイミング	解像度	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	ドットクロック周波数 (MHz)
480i	720(1440) x 480	15.73	59.94	27
480p	720 x 480	31.47	59.94	27
576i	720(1440) x 576	15.63	50	27
576p	720 x 576	31.25	50	27
720/50p	1280 x 720	37.5	50	74.25
720/60p	1280 x 720	45	60	74.25
1080/24P	1920 x 1080	27	24	74.25
1080/25P	1920 x 1080	28.13	25	74.25
1080/30P	1920 x 1080	33.75	30	74.25
1080/50i	1920 x 1080	28.13	50	74.25
1080/60i	1920 x 1080	33.75	60	74.25
1080/50p	1920 x 1080	56.26	50	148.5
1080/60p	1920 x 1080	67.5	60	148.5

ビデオの場合

タイミング	解像度	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	ドットクロック 周波数 (MHz)
480i*	720 (1440) x 480	15.73	59.94	27
480p	720 x 480	31.47	59.94	27
576i	720 (1440) x 576	15.63	50	27
576p	720 x 576	31.25	50	27
720/50p**	1280 x 720	37.5	50	74.25
720/60p**	1280 x 720	45.00	60	74.25
1080/24P**	1920 x 1080	27	24	74.25
1080/30P	1920 x 1080	33.75	30	74.25
1080/50i***	1920 x 1080	28.13	50	74.25
1080/60i***	1920 x 1080	33.75	60	74.25
1080/50P	1920 x 1080	56.25	50	148.5
1080/60P	1920 x 1080	67.5	60	148.5

☞ ***Frame Sequential (** フレームシーケンシャル **)** 形式での **3D** 信号のタイミングをサポートしています。

****Frame Packing (** フレームパッキング **)** および **Top-Bottom (** トップアンドボトム **)** 形式での **3D** 信号のタイミングをサポートしています。

*****Side-By-Side (** サイドバイサイド **)** フォーマットの **3D** 信号に対応するタイミング。

コンポーネント **-YP$_b$P$_r$** 入力

タイミング	解像度	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	ドットクロック周波数 (MHz)
480i	720 x 480	15.73	59.94	13.5
480p	720 x 480	31.47	59.94	27
576i	720 x 576	15.63	50	13.5
576p	720 x 576	31.25	50	27
720/50p	1280 x 720	37.5	50	74.25
720/60p	1280 x 720	45	60	74.25
1080/50i	1920 x 1080	28.13	50	74.25
1080/60i	1920 x 1080	33.75	60	74.25
1080/50P	1920 x 1080	56.25	50	148.5
1080/60P	1920 x 1080	67.5	60	148.5

☞ **1080i(1125i)@60Hz** または **1080i(1125i)@50Hz** 信号を表示すると、イメージが若干揺れる場合があります。

ビデオと **S** ビデオ入力

ビデオモード	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)	副搬送波周波数 (MHz)
NTSC	15.73	60	3.58
PAL	15.63	50	4.43
SECAM	15.63	50	4.25 または 4.41
PAL-M	15.73	60	3.58
PAL-N	15.63	50	3.58
PAL-60	15.73	60	4.43
NTSC4.43	15.73	60	4.43

制御コマンド

コントロール端子や LAN/HDBaseT 端子を通してコマンドを送ることでプロジェクターを制御することができます。

システム条件

コントロール端子

接続ケーブル	9-pin RS-232-C ケーブル（クロスオーバー）
通信モード	RS-232-C 非同期、半二重通信
ボーレート	19200 bps/9600 bps**
文字長	8 ビット
パリティーチェック	なし
ストップビット	1 ビット
フロー制御	なし

****HDBaseT** 使用時

LAN/HDBaseT 端子（ポート）

接続システム	TCP/IP 接続
ポート	33336

制御コマンド

機能	**Read/ Write**	操作	コマンド **(ASCII)**	
電源	W	電源を入れる	POWER=ON<CR>	スタンバイ状態において有効です。
	W	電源を切る	POWER=OFF<CR>	
	R	電源の状態	GET=POWER<CR>	どの電源状態でも有効です。 [ウォームアップ] g:POWER=OFF2ON [冷却中] g:POWER=ON2OFF

入力信号の選択	W	コンピュータ 1	INPUT=DSUB1<CR>	
	W	コンピュータ 2	INPUT=DSUB2<CR>	
	W	HDMI/MHL	INPUT=HDMI1<CR>	
	W	HDMI2	INPUT=HDMI2<CR>	
	W	HDBaseT	INPUT=HDBASET<CR>	
	W	ビデオ	INPUT=VIDEO<CR>	
	W	S ビデオ	INPUT=S-VIDEO<CR>	
	R	現在の入力信号	GET=INPUT<CR>	
音声制御	W	ミュートオン	MUTE=ON<CR>	
	W	ミュートオフ	MUTE=OFF<CR>	
	R	ミュート状態	GET=MUTE<CR>	
	W	音量 +	RC=VOL_P<CR>	
	W	音量 -	RC=VOL_M<CR>	
	R	音量状態	GET=AVOL<CR>	
イメージモード	W	プレゼンテーション	IMAGE=PRESENTATION<CR>	
	W	スタンダード	IMAGE=STANDARD<CR>	
	W	sRGB	IMAGE=SRGB<CR>	
	W	ムービー	IMAGE=MOVIE<CR>	
	W	DICOM	IMAGE=DICOM<CR>	
	W	ユーザー設定 1	IMAGE=USER_1<CR>	
	W	ユーザー設定 2	IMAGE=USER_2<CR>	
	R	イメージモード	GET=IMAGE<CR>	
アスペクト	W	アスペクト 4:3	ASPECT=4:3<CR>	
	W	アスペクト 16:9	ASPECT=16:9<CR>	
	W	アスペクト オート	ASPECT=AUTO<CR>	
	W	アスペクト リアル	ASPECT=TRUE<CR>	
	W	アスペクト 16:10	ASPECT=16:10<CR>	
	R	アスペクト状態	GET=ASPECT<CR>	

反転表示	W	前面投写	IMAGEFLIP= NONE<CR>	
	W	リア投写	IMAGEFLIP= REAR<CR>	
	W	天吊り投写	IMAGEFLIP= CEILING<CR>	
	W	リア・天吊り 投写	IMAGEFLIP= REAR_CEIL<CR>	
	R	反転表示状態	GET=IMAGEFLIP<CR>	
オート サーチ	W	オートサーチ 入	QAS=ON<CR>	
	W	オートサーチ 切	QAS=OFF<CR>	
	R	オートサーチ 状態	GET=QAS<CR>	
ランプ	R	ランプ時間	GET=LMPT<CR>	
	W	ランプモード ノーマル	LAMP=NORMAL<CR>	
	W	ランプモード エコ	LAMP=ECO<CR>	
	R	ランプモード 状態	GET=LAMP<CR>	

操作	W	ブランク オン	BLANK=ON<CR>	
	W	ブランク オフ	BLANK=OFF<CR>	
	R	ブランク状態	GET=BLANK<CR>	
	W	フリーズ オン	FREEZE=ON<CR>	
	W	フリーズ オフ	FREEZE=OFF<CR>	
	R	フリーズ状態	GET=FREEZE<CR>	
	W	メニュー オン	MENU=ON<CR>	
	W	メニュー オフ	MENU=OFF<CR>	
	W	オート PC	RC=AUTOPC<CR>	
	W	上	RC=UP<CR>	
	W	下	RC=DOWN<CR>	
	W	右	RC=RIGHT<CR>	
	W	左	RC=LEFT<CR>	
	W	OK	RC=OK<CR>	
高地対応	W	高地対応モード オン	HIGHALT=ON<CR>	
	W	高地対応モード オフ	HIGHALT=OFF<CR>	
	R	高地対応モード 状態	GET=HIGHALT<CR>	

制御応答

Read / Write	条件	応答	例
W	成功	i:OK<CR>	< BLANK=ON<CR> > i:OK<CR>
W	不正なフォーマット : コマンドまたは文法が存在しません	e:0002 INVALID_COMMAND<CR>	< INVALID=ON<CR> > e:0002 INVALID_COMMAND<CR>
W	サポートされない項目 : このコマンドパラメータはサポートされていません	e:000A INVALID_PARAMETER<CR>	< BLANK=INVALID<CR> > e:000A INVALID_PARAMETER<CR>
W	実行不可 : 現在のステータスは使用できません	e:1011 FUNCTION_NOT_AVAILABLE<CR>	< ASPECT=AUTO<CR> > e:1011 FUNCTION_NOT_AVAILABLE<CR>
R	成功	g:XXX=YYY<CR> XXX=Command Name, YYY=Parameter Name	< GET=BLANK<CR> > g:BLANK=ON<CR>
R	サポートされない項目 : このコマンドパラメータはサポートされていません	e:000A INVALID_PARAMETER<CR>	< GET=INVALID<CR> > e:000A INVALID_PARAMETER<CR>

☞• プロジェクターがコマンド終端の **<CR>** を **5** 秒以内に受信しない場合、タイムアウトとなりコマンドを再送する必要があります。

• 大文字と小文字は区別しません。

●長年ご使用の液晶プロジェクターの点検をぜひ！（熱、湿気、ホコリなどの影響や使用の度合いにより部品か劣化し、故障したり、時には、安全性を損なって事故につながることもあります。）

このような症状はありませんか	●電源スイッチを入れても映像や音が出ない。 ●映像が時々消えることがある。 ●変なにおいがしたり、煙が出たりする。 ●電源スイッチを切っても、映像や音が消えない。 ●内部に水や異物が入った。 ●その他異常や故障がある。	➡	ご使用中止	故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグをはずして、必ず販売店にご相談ください。

■補修用性能部品について

保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。
（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

お客様メモ	
品　番	
お買い上げ年月日	年　　月　　日
お買い上げ店名	☎

Canon

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90071

[受付時間]〈平日〉9:00～17:00
（土日祝日と年末年始弊社休業日は休ませていただきます）
※上記番号をご利用いただけない方は 043-211-9348 をご利用ください。
※上記番号は IP 電話プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめ御了承ください。

© CANON INC. 2015